

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO みずほ銀行

2024年4月1日

みずほディーラーズアイ (2024年4月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 146.50 ~ 154.00

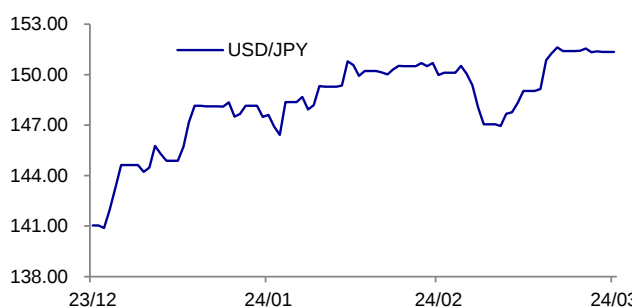
金融市場部 為替営業第一チーム 河合 良介

■ 先月の為替相場

先月のドル円相場は、日銀の政策修正観測に関する報道を受け前半は下落。日銀行金融政策決定会合でマイナス金利解除含む政策変更が決定されたが、材料出尽くし感と植田日銀総裁のハト派な会見内容から、反転上昇し、月後半には介入警戒感を意識しつつ、一時34年ぶりの円安水準となる151.97をつけ、その後は151円台の高値圏でもみ合い推移となった。(1・2週目)月初、東京時間150.08でオープンしたドル円は、植田日銀総裁の「物価目標達成までには至っていない」との発言を受け150円台半ばまで上昇したが、海外時間に入り、米2月ISM製造業景況指数等の指標が予想を下回ると下落し、結局150.13で越週。週初4日、150.13でオープン後、週高値の150.57をつけた。5日、米2月ISM非製造業景況指数が弱い結果となると、米金利低下を受け、149円台後半まで下落。6日以降、断続的に日銀の早期政策修正観測報道が出ると、円買いが継続。8日に発表の米2月雇用統計では、雇用者数の伸びが堅調だったものの、失業率が4%に迫る約2年ぶりの高水準となり平均時給も鈍化したことで、週安値の146.48をつけた後、やや値を戻し147.09で越週。(3週目)週初11日、146.80でオープン後、日銀の政策修正観測が高まり一時146.49まで下落するも、12日発表の米2月CPIが上振れるとドル円は上昇。14日に日銀関連報道で急落する場面もあったが、15日海外時間、米金利上昇を受けたドル買いに週高値の149.17をつけ、149.08でクローズ。(4週目)週初18日、148.95でオープン後、19日には日銀によるマイナス金利解除を含めた政策変更が発表されたが、材料出尽くし感と植田日銀総裁のハト派な会見内容、海外時間には良好な米経済指標が発表されたことも加わり、151円台後半まで上昇。20日、FOMCでは予想通り政策金利の据え置きが決定。更新されたドットチャートやパウエルFRB議長会見がハト派と解釈され150円台前半まで巻き戻す展開となった。しかし、21～22日にかけ堅調な米経済指標を受けた米金利上昇を背景にドル買い地合いが続き、一時151.86と年初来高値を更新。その後やや値を戻し151.49でクローズ。(5週目)週初25日、151.31でオープン後、25・26日は、本邦当局者からの円安率制発言にも反応薄で、151円台前半での狭いレンジ推移した。27日の田村日銀審議委員のハト派な発言に一時34年ぶりの円安水準となる151.97をつけ、その後は円安警戒のトーンが強まった本邦当局者からの発言・三者会合が行われるとのHLで下落し、151円台の高値圏でもみ合い推移となり、151.30近辺で取引されている。(東京時間12:00現在)

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 今月の見通し

今月のドル円は、本邦当局の介入警戒感または実際の介入実施により急落する可能性を孕みつつ、米国の強い経済指標・根強いインフレ懸念を背景とした米利下げ時期の後ずれ・利下げベースの鈍化期待により底堅い推移を予想。

3月19・20日に開催されたFOMCでは5会合連続での現状維持が決定され、ドットチャートも、市場では年内2回程度の織込みに後退するとの予想もあったが、昨年12月会合同様年内3回の利下げ見通しが維持された。パウエルFRB議長の記者会見での「今年中に緩和を始めるのが適切になるだろう」という発言がハト派と捉えられたものの、3月27日にはウォラーFRB理事が「最近の経済データでは年内に予想される利下げを遅らせるか、利下げの回数を減らすことが裏付けられる」と金利引き下げを急ぐ必要がない」との認識を示しており、今月も米国の強い経済指標・根強いインフレ懸念の高まりや米高官のタカ派よりの発言による米利下げ期待の後ずれ・利下げベースの鈍化期待が、ドル円上昇のメインドライバーとなるのではないかと予想。

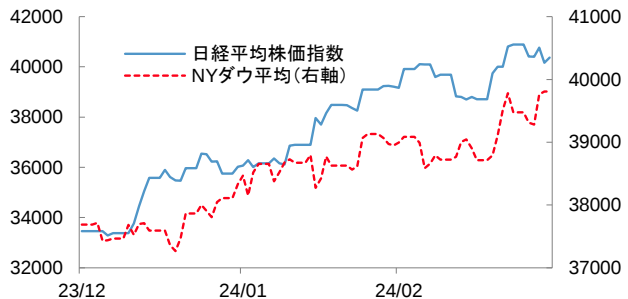
本邦では、3月18・19日の日銀金融政策決定会合にてマイナス金利解除を含めた政策変更が発表されたが、材料出尽くし感から、34年ぶりの円安水準となる151.97をつけ円安に歯止めがかからない状況。当局関係者の発言も円安警戒を一層強めるトーンとなっており、仮に介入が実施されれば、5円前後の一時的な下落は期待できる。

引き続き、注目は米国のインフレ・雇用指標であり、経済データを眺めながら、米高官発言を眺める相場展開を想定。本邦貿易赤字に絡む実需のドル買い需要、新NISA経由での個人のドル買いもサポート材料。

今月末から来月初にかけて開催される日米の金融政策決定会合では、特に本邦サイドは、3月にマイナス金利解除をしたばかりで、連続利上げの可能性は低く日米共に現行の金融政策維持され、ドル円相場への影響は限定的になると見ている。

■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	ISM製造業景況指数	2月	49.5	47.8	49.1
3/5	ISM非製造業景況指数	2月	53.0	52.6	53.4
3/8	非農業部門雇用者数	2月	200K	275K	229K
3/8	失業率	2月	3.7%	3.9%	3.7%
3/8	平均時給(前月比)	2月	0.2%	0.1%	0.5%
3/12	CPI	2月	3.1%	3.2%	3.1%
3/12	CPI(除く食品エネルギー)	2月	3.7%	3.8%	3.9%
3/19	日銀政策金利	-	0-0.10%	0-0.10%	-0.1%
3/20	FOMC政策金利	-	5.50%/5.25%	5.50%/5.25%	5.50%/5.25%

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル/円 見通しまとめ

ブル	12名	155.00 ～ 148.00	ベア	4名	152.50 ～ 147.00
----	-----	-----------------------	----	----	-----------------------

※ レンジは中心値

宮地	ブル	155.00 ～ 148.00	円買い材料の出尽くし感やFRB利下げの遅れがドル上伸をサポート。3者会合が開催され介入警戒感が煽るも、低ボラティリティの環境下、円キャリーが入りやすく、ドル円の新値を探る展開を予想。	松永	ベア	152.50 ～ 148.00	足許のタイトな労働市場下で、FRBが拙速な利下げに動くとは想定しづらいものの、本邦当局の介入警戒もありドルの上値は限られよう。国内賃上げ動向によっては日銀のさらなる金融引き締めへの期待が強まる可能性も否定できない。
河合	ブル	154.00 ～ 146.50	今月のドル円は、本邦当局の介入警戒感または実際の介入実施により急落する可能性を孕みつつ、米国の強い経済指標・根強いインフレ懸念を背景とした米利下げ時期の後ずれ・利下げペースの鈍化期待により底堅い推移を予想。	上遠野	ブル	155.00 ～ 147.00	政府・日銀の為替介入次第で一時的な急落は十分予想されるも、日米金利差縮小ペースが緩やかである基本シナリオや需給に照らした構造的背景に变りはなく、方向感を変えるには至らずか。ドル円は介入との攻防の中で上値を試す展開を想定。
川端	ブル	155.00 ～ 147.00	FRBで年内3回の利下げ見通しが維持されたが、早期の利下げに慎重な高官発言もあり指標次第ではUSDは買い戻され易い。日銀のマイナス金利撤廃後も円買いは限定的であり介入警戒感はあるどじり高の展開を予想。	大熊	ブル	153.00 ～ 148.00	日銀がマイナス金利解除に踏み切っても円高は進まず、金融緩和継続にフォーカスされて円安の流れとなっている。足元の米経済は底堅く、米株が史上最高値を更新し続けている状況下では、円高局面の到来は難しいか。
加藤	ベア	152.50 ～ 145.00	米国の労働市場が予想外に堅調で投機で積みあがった円ショートはキャリーされている。しかしトランプ氏が現実味を帯びてくるにつけ円ショート巻き戻しが大きく入る可能性は高まると思う。	范	ベア	152.50 ～ 147.00	ドル円は引き続き為替介入警戒から上値の重い展開を予想。中小企業も含めた賃上げ結果が出揃う中、日銀について追加利上げ期待再燃するようであれば円が買われる局面もありそう。
伊藤	ブル	155.00 ～ 146.00	米インフレは徐々に鈍化しているものの、FEDの早期利下げは先送り。一方、日銀は政策修正に一步踏み出すも金融緩和を継続する方針で、実需フローを鑑みても大きく円高が進行する可能性は低い。為替介入で下押し時は絶好の買い場か。	伊藤(基)	ブル	155.00 ～ 148.00	足元のドル円の動きは、マクロ環境を素直に反映した値動きと考えている。日銀が追加利上げの具体的な見通しを立てるのは困難なかで円が積極的に買われる理由はない。そうした中では、じりじりと上昇する展開がしばらく続くだろう。
山崎	ブル	155.00 ～ 146.80	BOJの金融政策決定後の円安推移により、次なる関心は介入となっている。以前、上昇圧力が強いが警戒感から上値が重い。米国の動向からじりじりと上昇する展開を予想するが、介入実施には常に警戒したい。	鈴木	ブル	154.00 ～ 148.00	日銀は当面緩和的な金融政策の継続を示唆している上、米国は依然として利下げ織り込みが剥落しつつある状況。当局の動きには警戒が必要なものの、根強い円売り需要を背景に、ドル円は引き続き底堅い値動きを予想する。
山口	ベア	153.00 ～ 147.00	米金融緩和開始の後ズレ、さらに日銀が年内に追加利上げを実施する可能性が低い状況下、フロー主導でドル円は底堅く推移すると予想。ただし、介入警戒感からドル円が大きく上昇するともみていない。	西	ブル	155.00 ～ 148.00	日銀はマイナス金利解除に踏み切ったものの、政府・日銀の緩和継続スタンスは不変。実弾介入があったとしても押し目となる可能性が高いか。一方でFRBは早期利下げに慎重な姿勢を見せていることから、底堅い推移の継続を予想する。
田川	ブル	152.60 ～ 150.50	日銀はマイナス金利政策を撤廃したにもかかわらず、ドル/円2022年の直近高値を超えた。5月1日のFOMCで利下げが決定されると思えず、円高材料として本邦が為替介入を気にしながら、基調ドル高ビュで臨みたい。	松木	ブル	155.00 ～ 149.00	日銀はマイナス金利解除後も緩和的な金融環境の継続を明言している以上、積極的に円を買う材料は見当たらない。152円の壁は厚いものの上抜けた場合には勢いづく可能性が高いか。

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.0600 ~ 1.0900
EUR/JPY 160.00 ~ 166.00

金融市場部 為替営業第二チーム 西 拓也

■ 先月の為替相場

3月のユーロ相場は上に往って来い。

1日、ユーロ圏2月CPI速報値がヘッドライン、コアともに予想を上回り、直後は買いで反応するも続かず、売り優勢に転じると一時1.08台を割り込むも、軟調な米経済指標を背景にドル売りが強まる動きにもサポートされ、1.0840付近へ上昇。

2週目、米金利低下を受け、週後半に上昇。4日、ポンド買いの流れが波及し、1.08台後半へ。6日、米金利低下や欧州株価の堅調推移が支援材料となり、1.09台まで上昇。7日、ECB政策理事会での政策金利は現状据え置き、インフレ見通しは下方修正の発表を受け、一時1.08台後半まで急落。ただ、その後のラガルドECB総裁の記者会見が市場予想ほどハト派な内容ではなかったことから、独金利上昇の流れに約1か月半ぶりの高値となる1.09台半ばへ反転上昇した。8日、ビルロッドガロー仏中銀総裁の4月か6月の利下げ開始を示唆する発言などを受けて1.09台前半へ反落。その後は冴えない米2月雇用統計の結果を背景に1.0980まで高値を更新した。3週目、小幅に下落した。週初11日、米金利上昇を受けて軟調推移。12日、米2月CPIが強い結果となったことを受けて、一時1.09付近まで下落。13日、独金利・欧州株上昇を背景に週高値である1.0963まで一時上昇した。14日、米2月PPIの予想比上振れやECB高官によるハト派発言を受けて一時1.09を割り込んだ。4週目、中銀イベントの結果を受けて上下する展開。18日、ユーロ圏2月HICP(確報値)の結果を受けて1.09台前半まで底堅く上昇。20日、FOMCの結果を控えて様子見ムードとなったが、ラガルドECB総裁の早期利下げを思わせる発言が伝わると、ユーロ売り優勢の展開に。注目されたFOMCでは政策金利は据え置かれたが、パウエルFRB議長の高値のハト派な発言によりドル売り優勢となり反転上昇。21日、1.0923まで高値を切り上げたが、スイス中銀が利下げに動いたことや予想比弱いユーロ3月製造業PMI(速報値)の結果を受けて、大幅に下落。米国時間には予想比強い米3月製造業PMI(速報値)の結果からドル買いが加速し1.08台後半まで値を下げた。22日もユーロ売りドル買いの流れが続き、下値を切り下げた。5週目、ECB高官のハト派な発言や軟調な欧州経済指標が重しとなり、週後半に下落した。25日、独金利上昇や欧州株の堅調推移が下支えとなり、1.08台半ばに上昇。26日、欧州株上昇が好感され一時週高値の1.0864まで続伸した。28日、独2月小売売上高の弱い結果やパネッタ伊中銀総裁のハト派な発言などが嫌気されて下落。29日、グッドフライデーの中で上値重く推移した。

■ 今月の見通し

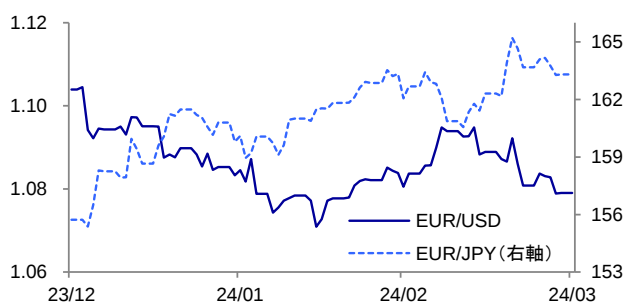
今月のユーロドル相場は上値の重い展開を予想する。

3月のECB政策理事会では、事前の市場予想通り主要金利の据え置きが決定された。併せて公表されたスタッフ見通しでは前回12月の見通しと比較すると、成長率は24年が下方修正(26年は上方修正)、インフレ見通しはヘッドラインインフレ率・コアインフレ率ともに下方修正された。しかし、2%の物価目標に向けて進んでいるものの、確証を得るためには更なるデータ・証拠が必要な状況である。ラガルドECB総裁の会見においても、今回の会合では利下げの議論はしていないが、制限的な姿勢を巻き戻す議論を開始したこと、4月に得られるデータは相対的に少ないが、6月にはより多くのデータが得られること、6月により多くのデータが得られる点には幅広い合意があったことなどを回答している。当面はデータ見極めの時間が続くだろう。

また、ユーロ圏で懸念されていた深いリセッションは回避できる公算が大きい。足許ではECB高官から景気下振れを警戒して早期の利下げを示唆するハト派な発言が続いている。6月会合での利下げ織込みは徐々に高まっており、ユーロドル相場は上値が重くなりやすい。米国についても6月利下げがメインシナリオであったが、徐々に早期利下げに慎重なメッセージが出てきていることも踏まえれば、FRBの利下げは後ずれしECBは6月利下げという道筋がメインシナリオに置き換わる可能性も視野に入れておくべきか。対人民元でドルが買われているなど、ユーロドル相場の重石となる材料が多いように思われる。

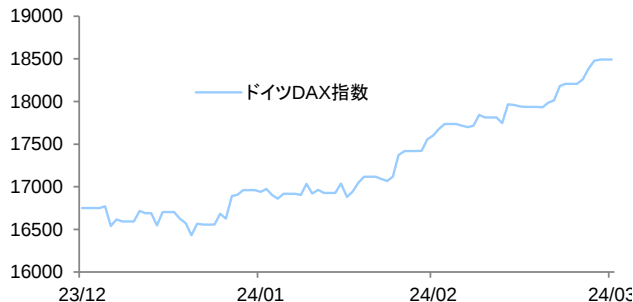
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	ユーロ圏消費者物価指数	2月	2.5%	2.6%	2.8%
3/6	ユーロ圏小売売上高	1月	-1.3%	-1.0%	-0.8%
3/7	独製造業受注	-	-6.0%	-11.3%	8.9%
3/7	ECB政策金利	1月	4.50%	4.50%	4.50%
3/19	ユーロ圏ZEW景気期待指数	3月	-	33.5	25.0
3/21	ユーロ圏製造業PMI(速)	3月	47.0	45.7	46.5
3/21	ユーロ圏サービス業PMI(速)	3月	50.5	51.1	50.2

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ/ドル 見通しまとめ 見通しまとめ

ブル	3名	1.0950 ～ 1.0700	ベア	13名	1.0900 ～ 1.0600
----	----	-----------------------	----	-----	-----------------------

※ レンジは中心値

宮地	ベア	1.0900 ～ 1.0550	FRBとECBの金融政策における利下げスタンスの違いがマーケットに浸透。景況感についても米国の底堅さが意識される状況下、ユーロの上値は限定的か。	松永	ベア	1.0900 ～ 1.0600	欧米どちらが先に利下げに動くのが今後の焦点となろうが、FRB、ECBともに6月以降の利下げを市場が織り込む中、方向感を見出しづらい地合いが継続しよう。SNBのサプライズ利下げもありややECBが弱含みやすいか。
河合	ブル	1.0950 ～ 1.0700	4月中旬開催予定のECB理事会、月末挟みで開催予定のFOMC共に、政策金利据え置きとなり相場トレンドを形成する結果にならない可能性が高く、基本レンジ相場を予想も、需給面(ユーロ圏の経常収支)に支えられ、ややブル目線。	上遠野	ベア	1.0850 ～ 1.0600	域内賃金やインフレ率の鈍化データを見定めつつ、6月利下げをメインシナリオとして織り込みが加速するタイミング。スタンスが市場想定よりも硬化するFRBとの対比感からユーロは弱含みか。
川端	ベア	1.0950 ～ 1.0650	弱い成長見通しとインフレ鎮静化を理由に利下げ時期を探る展開が継続。インフレ動向の鎮静化を慎重に確認するスタンスが明確であり、当面はFRBの年内利下げ期待に従属的な展開を予想。下落バイアスの中でレンジ推移。	大熊	ベア	1.1000 ～ 1.0700	欧州の景気後退は回避できそうな状況である一方で、インフレ鎮静化によりECBの利下げ開始はFRBよりも早まるとの見方が高まりつつある。欧米の経済状況を比較しても対ドルではユーロは売られやすい地合いを予想する。
加藤	ベア	1.0900 ～ 1.0500	巨大な貿易黒字圏であるユーロ圏においてドイツの成長率鈍化は影響が大きい。6月利下げ開始が確実視されており、グローバルな利下げ競争に入った場合に利下げペースがFRBより早くなる可能性もある。	范	ベア	1.0900 ～ 1.0500	FRB・ECBについて利下げのタイミングが通貨の強弱を左右する相場。ECBはFRBよりも早く利下げするとみられ、相対的に売られやすいと予想。
伊藤	ベア	1.0900 ～ 1.0500	米利下げペースが減速するリスクが高まる一方で、ECB高官からはハト派発言が相次いでおり、6月利下げの可能性が高まっている。ドル強含みの中で基本的にユーロドルの上値は重い。直近の人民元の動きも全体的なドル高をサポート。	伊藤(基)	ベア	1.0900 ～ 1.0600	米国経済が底堅く推移し、物価も下げ足が速まらない中では、FEDは利下げに動きにくいであろう。一方で、マクロ環境が米国ほど強くない欧州においては利下げ観測が強まりやすく、引き続き、ユーロは軟調な推移になろう。
山崎	ベア	1.1000 ～ 1.0700	ユーロ圏経済も底堅さがみられることから、欧州圏の利下げタイミングは米国のそれと同じように後ずれしているように思われ、方向感の出づらいものと考えてるが、どちらかといえば下押し圧力が強いと想定。	鈴木	ベア	1.0900 ～ 1.0550	最近のECB高官の発言等から、6月の利下げ開始が現実味を帯びてきている。織り込みが徐々に後退している米国との金融格差、景気動向の差異が目立ってきており、対ドルでユーロは軟調な値動きを予想する。
山口	ブル	1.1000 ～ 1.0700	ECBによる利下げ開始の前倒しが議論されればユーロ売りに傾くが、足もと発表される欧州経済指標を見る限り利下げを急ぐ状況ではないため、ユーロは引き続き底堅く推移すると予想。	西	ベア	1.0900 ～ 1.0600	FRBが早期利下げに慎重なスタンスを見せる一方で、ECBからはハト派的な発言が多く6月利下げ織り込みが進んでいる。対人民元のドル買い、SNB利下げなどユーロドル相場の重石となる要素が多い。
田川	ブル	1.0900 ～ 1.0550	3月のECBを経て6月または7月に利下げというコンセンサスが形成され、従前の想定よりも利下げは後ズレ、FRBと同タイミングという織り込み。伴ってユーロ/ドル相場も横ばいの展開を想定。	松木	ベア	1.0900 ～ 1.0650	今月開催されるECB会合では利下げが実施される可能性は低いですが、6月利下げがほぼコンセンサスとなる中、堅調な米経済から利下げの後ずれが意識されやすいドルに対してユーロは弱含みやすいか。

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.2400 ~ 1.2800
GBP/JPY 187.00 ~ 193.00

欧州資金部 中島 将行

■ 先月の為替相場

3月の英ポンド相場は6日の英予算案発表前後にかけて上昇する場面もあったが、その後はBOEにハト派サプライズがあったことや、グローバルなドル高の流れに押され、上昇分が打ち消される展開となった。
第1週は1日のみだったが、米2月ISM製造業景気指数が市場予想を上回ったこともありポンドは反発。

第2週は、パウエルFRB議長の議会証言や米2月雇用統計を経て、米国が年央にも利下げを実施するという市場の見方が強まりポンドは大幅に続伸。8日には対ドル1.2894に達し、2月末からの上昇率は約+2.2%に達した。6日発表の英予算案では、事前報道通りハント財務相は国民保険料率の引き下げなど、家計負担を軽減する方針を示している。給与天引きされる被雇用者負担の国民保険料率は8%と、従来の10%から引き下げられる。昨年11月の秋季財政報告でも同保険料率は2%ポイント引き下げられた。ポンド相場の直後の反応は限定的だったが、少なくともポンド持ち直しの動きを阻害するものとはならなかった。

第3週は一転してポンドは対ドルで▲0.6%下落。米金利上昇・ドル高の流れの中で、ドルに対しその他のG10通貨は下落した。ドル高の流れを作ったきっかけは明確ではないものの、12日公表の米2月消費者物価指数(CPI)、14日公表の米2月生産者物価指数(PPI)と物価指標が立て続けに市場予想を上回ったことが影響しているだろう。一方、英国では1月GDPが発表され、市場予想通り前月比+0.2%とリセッション(景気後退)が既に過去のものとなりつつある可能性を示唆するものとなった。

第4週のポンド相場は対ドルで約▲1.0%続落。21日のBOEの金融政策決定会合では、マン委員とハスケル委員が利上げ票を取り下げるなどのハト派サプライズがあった。同日にSNBがG10中銀で今局面で初の利下げに動いたことや、ユーロ圏の3月総合PMI(速報)が悪化するなど景気低迷の長期化が意識されたことも、グローバルなドル高を促したものと見られる。

第5週のポンド相場は28日時点で先週末と比較し対ドルで約+0.3%反発している。その前の週に、これまでの利上げ票を撤回し5.25%の政策金利の維持を支持したマン氏、ハスケル氏両氏のインタビューがそれぞれあった。両氏とも利下げはまだ先、と市場に釘を指す発言を行っている。

■ 今月の見通し

ポンドを含む為替市場の流れは引き続き、FRB、ECB、そしてBOEの利下げ開始時期とその後の利下げペースが焦点である。4月3日(水)に発表されるユーロ圏3月消費者物価指数(HICP、速報値)や、5日(金)に発表される米3月雇用統計の結果次第では市場の織り込みに変化がもたらされる可能性はあるものの、現時点のデータからはドルがサポートされやすい。FRBを巡ってはなお底堅い米雇用・景気指標を受けて利下げの先延ばし観測が広がる一方、ECBやBOEといったその他の主要中銀は金融緩和に向けて前進しつつあるという見方が強まりつつある。3月会合でのSNBのサプライズ利下げ、リクスバンクの5月か6月会合での利下げ示唆、もこうした流れに拍車をかけている。

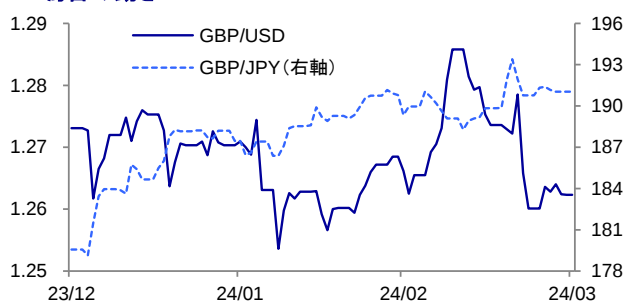
一方、ポンドは対ユーロではサポートされやすいと見ている。ラガルドECB総裁をはじめECBの高官発言は、「6月利下げ開始」を示唆するものである一方、BOEで3月会合の時点で据置き票が8、利下げが1、と多数派が利下げ開始に傾くにはまだ距離があると見られるためだ。3月会合で利上げ票を取り下げたのは26日のブルームバーグとのインタビューにおいて、利上げ票を撤回した理由について、英国の労働市場のダイナミクスが変化しているため、投票行動を変更したと説明した。生活水準の低下を補うために人々が追加雇用を求めている兆候が強まっているが、雇用主は採用に消極的だとの認識を示し、ホテルやレストラン、娯楽などのサービスに対する最長の支出も縮小していると指摘している。一方のハスケル氏は28日に公表されたFTのインタビュー記事の中で、利上げ票を取り下げた理由の一部はインフレの数字が予想以上に良好だったからと説明。だが、BOEが実施した企業調査では賃金の伸びが依然として高すぎ、緩やかにしか鈍化しないだろうと述べている。対円では2015円以来となる190円台が定着しつつあるが、先行きは日本側の動き、特に為替介入観測が焦点となるだろう。日本銀行は3月19日にマイナス金利解除、イールドカーブコントロール(YCC)撤廃など歴史的な政策転換に踏み切ったが、なお円に対する下落圧力は根強い。市場はさながら日銀に対する催促相場の様相を呈しているが、日銀がマイナス金利解除後も緩和的な環境を継続するとしている中、次の政府・日銀の一手は為替介入になるとの見方は根強い。

■ 今月のつづき(現地からの声)

『当地で人気のお土産』
ロンドンには様々なお土産の定番アイテムがあります。が、「英国らしい」、「かざばらない」、「値段も手ごろ」と3拍子揃ったアイテムは紅茶のティーバックではないかと思います。ピカデリー・サーカスあたりを歩けば、たくさんの紅茶専門店があります。中には、日本で売っていないブランドのものもありますので、お土産にすれば喜ばれること間違いなし?だと思います。そうしたロンドンの紅茶ですが、私のお気に入りには英国の老舗デパート「Fortunam&Maison」で売っている紅茶です。お土産として買って帰る以外にも同じFortunam&Maisonで売っている少し小ぶりのスコーンと一緒にいただくと、リーズナブルに高級感が味わえますのでおすすめです。

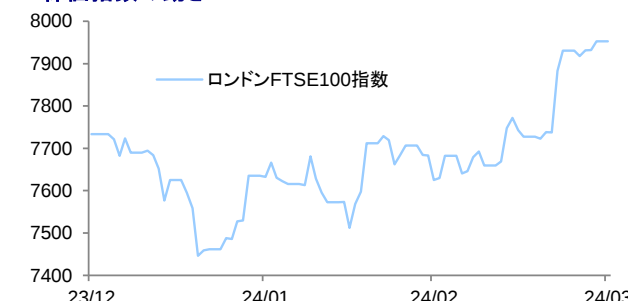
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	RICS住宅価格指数	2月	0.7%	1.2%	-0.2%
3/12	週平均賃金(前年比)	11-1月	5.7%	5.6%	5.8%
3/12	失業率	1月	3.8%	3.9%	3.8%
3/13	鉱工業生産(前年比)	1月	0.0%	-0.2%	0.6%
3/13	製造業生産(前年比)	1月	0.0%	0.0%	0.8%
3/14	RICS住宅価格指数	2月	-10%	-10%	-19%
3/20	CPI(前年比)	2月	3.5%	3.4%	4.0%
3/21	サービス業PMI	3月	53.8	53.4	53.8
3/21	イングランド銀行政策金利		5.25%	5.25%	5.25%
3/22	小売売上高(前月比)	2月	-0.4%	0.0%	3.6%

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.6400 ~ 0.6680
AUD/JPY 96.60 ~ 100.60

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口 志保

■ 先月の為替相場

3月は0.65近辺でスタートし、月初は0.65台割れで重く推移した。5日、全人代で発表された財政赤字目標が23年から縮小し、控えめな刺激策に留まる可能性が高まり、豪ドル安に繋がった。加えて行使期限を迎える大型オプションの行使価格につられ下落幅を拡大し、月間安値0.6477まで下落。その後は支持線にはじかれて上昇。米2月ISM非製造業総合指数等の米指標が軒並み予想比悪化し、ドル売りになった事でも豪ドルを支えた。6日、パウエルFRB議長は議会証言で、「年内いずれかの時点で利下げを開始するのが適切になる可能性が高い」と繰り返した事を受けてドル売りが進み0.6581まで上昇した。翌日もパウエルFRB議長が利下げを始めるのに必要な確信に近づいているとの見方を示唆し、米債利回りが短期ゾーンを中心に低下。ドル売りを背景に豪ドルは0.66をあっさり上抜けた。8日、米2月雇用統計では非農業部門雇用者数変化が予想を上回るも、前回値が大幅下方修正された事や失業率が2年ぶりの高水準に悪化した事等が嫌気され、豪ドルは一時月間高値の0.6667まで上昇後下落。11日は米債利回りが上昇するにつれ豪ドルは頭を押さえられて一時0.66割れ。12日、米2月CPIはコア指数が前月比、前年比共に予想を上回り、早期利下げ観測の後退に繋がった。米金利上昇につれてドルは買いとなり、豪ドルは一時0.6584まで下落。14日、米2月生産者物価指数が予想を上回る伸びとなり、株式、債券共に下落。ドル買いから豪ドルは0.6569まで急落した。19日、RBAは市場予想通り政策金利を4.35%で据え置き、声明文で引き続きデータと経済見通しを注視と繰り返したが、“further increase in interest rates cannot be ruled out”という文言が削除され、代わりに“The board is not ruling anything in or out”という文言が追加された事で、利上げバイアスが後退したとの見方が浮上。0.6504まで下落した。20日、FOMCでは予想通り政策金利の据え置きを決定。金利見通しでは、年内3回の利下げという従来予想を据え置いた。市場が想定していたよりもハト派的との解釈で、株式はほぼ全面高となり、米金利は低下。豪ドルは0.6587まで上昇した。21日、強い豪2月雇用統計を受けて更に豪ドルは0.6634まで上昇。22日、中国人民元の中心レートが元安で発表されると、中国当局が何か月も防衛してきた7.20を超える水準まで下落し、豪ドルも連れ安となり0.6530近辺まで下落した。中国当局が景気回復が鈍い中で通貨安を容認する構えとの見方が浮上し、中国株が大きく下げ、0.6511まで下落した。月末にかけては期末調整フローやオプションピンを背景に上下した。

■ 今月の見通し

3月、RBA会合後の声明文で利上げに言及する文言が削除されたことで、利上げバイアスが後退したとの見方が浮上し、これを受けて豪ドルは重く推移。但し、その後発表された豪2月雇用統計では失業率が再び3%台へ落ち込み、雇用環境の堅調さが示された。これを受けて賃金上昇が更に加速し、インフレが再燃するのではとの懸念が燃えた。月末には豪2月月次CPIが発表され、僅かに上昇するとの市場予想に反し、3.4%で伸びは横ばいとなる一方で、コアCPI(トリム平均値)は3.9%へ上昇し、こちらでもインフレが再燃する兆しがかがえた。これらに鑑みるとインフレ圧力が燃える中、RBAが利下げへ駒を進めることが難しい状況であるため、結果的に現行の政策を維持せざるを得ない状況が続くとみる。もっとも、4月RBA会合はなく、次回のRBA会合は5月7日であるため、引き続きデータを中心に推移することになるが、更なるインフレ加速懸念につながる経済指標が発表されれば豪ドルの押し上げに寄与するとみる。

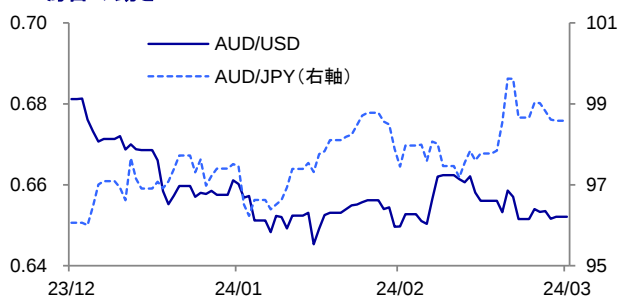
一方で米3月FOMC会合で発表されたドットプロットの中央値は2024年利下げ回数は3回で従来予想を据え置いても、2025年の利下げ予想回数を4回から3回へ減少させており、ハト派寄りと解釈された。その他の経済予測中央値では2024年末のインフレ予想中央値が2.4%、政策金利は2024年末において4.6%まで利下げするとの予測中央値が発表された。FOMCのインフレターゲットは2%であるのに対し、未だインフレターゲットまで程遠い状態で今年3回の利下げを予測していることになる。整合性のずれにいささか違和感を感じるものであったが、経済データで予測通りもしくはそれより早いペースでインフレが緩和していく展開が見られれば、現在金利市場で織り込まれる初回利下げである7月に向けて利下げ織り込み期待が進むため、ドル売りの流れが強まるとみる。故にこちらも豪ドルの押し上げに寄与しよう。

但し、ここにて足元では中国景気回復の鈍さが目立っており、3月中国当局が防衛してきた人民元の中心レートが7.20を超える水準まで下落している。これを受けて中国当局が通貨安を容認する方針との見方が強まった。加えて習近平が国債買い入れについて触れた事で、市場では中国当局がデフレ脱却を目的とする量的緩和を検討しているとの憶測が飛び交っている。新たな刺激策に対する期待が先行し、実態がそれを上回らない場合は再び人民元安となり、ひいては豪ドル連れ安となるリスクにも注意したい。

4月の豪ドルは概ね下値を支えられるとみるが、中国リスクが出現する際には下げ幅の拡大に注意したい。

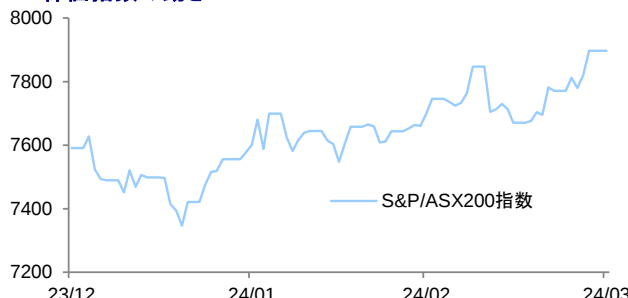
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/6	GDP(季調済/前期比)	4Q	0.2%	0.2%	0.3%
3/6	GDP(前年比)	4Q	1.5%	1.5%	2.1%
3/7	貿易収支	1月	AS\$11500m	AS\$11027m	AS\$10743m
3/19	RBAキャッシュレート	3月	4.35%	4.35%	4.35%
3/21	失業率	2月	4.0%	3.7%	4.1%
3/21	参加率	2月	66.8%	66.7%	66.6%
3/21	正規雇用者数変化	2月	-	78.2k	19.9k
3/21	非常勤雇用者数変化	2月	-	38.3k	-4.6k
3/27	CPI YoY	2月	3.5%	3.4%	3.4%
3/28	小売売上高(前月比)	2月	0.4%	0.3%	1.1%

カナダドル相場

予想レンジ:

USD/CAD 1.3200 ~ 1.3800
CAD/JPY 107.00 ~ 112.00

米州資金部カナダ室 芦崎 瑞穂

■ 先月の為替相場

月初6日に行われたカナダ中銀政策金利決定会合では、政策金利が予想通り5.0%に据え置かれた。中銀のスタンスは予想ほどハト派的でなかったことから、市場はカナダドル買いで反応。同時刻に行われたパウエル議長の議会証言ではFRBが今年のある時点で利下げをするとしたが、開始時期については発言がなかったことからUSD/CADは1.34台後半へ下落。7日米新規失業保険申請件数や米1月貿易収支の冴えない結果や、パウエル議長のインフレ低下に対する確信は“そう遠くない”との発言にUSD/CADは1.34台半ばへと統落。8日発表のカナダ2月雇用統計は失業率は5.8%と予想と一致、前回(5.7%)から上昇。雇用者数は40.7kと予想(20.0k)を上回り、前回(37.3k)から増加。平均時給の伸びは前年同月比で4.9%と前回(5.3%)から鈍化した。一方米雇用統計では、大幅増であった1月の雇用者数が大幅に下方修正されるとともに、2月の非農業部門雇用者数は275kと前回(229k)と予想(200k)を上回り、失業率は3.9%と予想と前回(3.7%)を上回り労働市場の減速が示された。USD/CADは1.3420まで値を下げた。12日米1月消費者物価指数(CPI)は前年同月比で3.2%上昇し、前回(3.1%)から伸びが加速。変動の大きい食品とエネルギーを除くコア指数は前年同月比で3.8%と前回(3.9%)から低下したが、予想(3.7%)を上回った。米利下げ開始後ずれ観測が高まり、USD/CADは1.3526まで上昇するが、原油価格が上昇するに連れ1.34台半ばへ反落した。14日米2月生産者物価指数(PPI)が予想を上回り伸びが加速。また米新規失業保険申請件数が減少、米小売売上高は前回のマイナスから改善した。米債券利回りの上昇に連れ、USD/CADは1.3541まで上昇。19日カナダ2月の消費者物価指数(CPI)は前年比2.8%と予想(3.1%)と前回(2.9%)を下回る結果となった。中銀が重視するコアインフレのトリム平均値と中央値も予想と前を下回り、インフレが軟化したことが示された。市場ではカナダ中銀の早期利下げ観測が高まり、USD/CADは1.3614まで上昇。20日FOMCでは政策金利を据え置く一方で、2024年に3回の利下げを予想。市場で年内2回の利下げ予想が出始めていた中、FOMCの結果はハト派姿勢と受け止められ、USD/CADは1.3482まで急落した。21日スイス中銀が主要中銀として初めて利下げに踏み切ったことで、他の中銀も近いうちに利下げを開始するとの期待が高まった。相対的に米経済には堅調さが見られることから、USDドルが全面高となり、USD/CADは再び1.3614まで上昇する場面が観測された。月末はカナダGDPが前月比、前年比共に予想を上回る強い結果となり、USD/CADは1.35台半ばへと下落した。

■ 今月の見通し

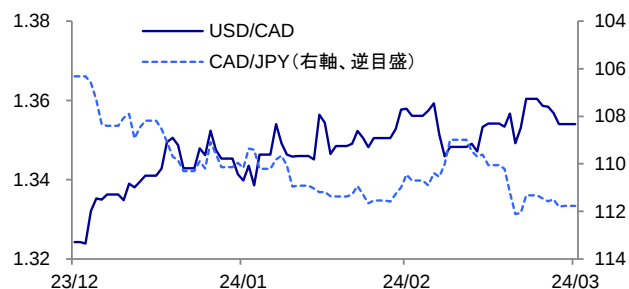
3月6日に行われたカナダ中銀政策金利決定会合ではコアインフレへの懸念が継続して示され、利下げ時期を示唆するような文言は含まれなかった。またマックレム総裁は、1月会合後に示された経済指標に“大きなサプライズはなかった”との見方を示した。2月のカナダ消費者物価指数ではインフレ率の低下が示され、2カ月連続でカナダ中銀の目標レンジである1%から3%の範囲内に収まった。労働市場は、雇用増が人口増加に追いつかない状況が続いているが、労働市場での需給ひっ迫は緩和しつつあり、賃金上昇の鈍化も見られる。カナダ経済は人口増加や、堅調な米国経済によって支えられており、家計や政府支出、設備投資を含む内需は減少傾向にある。経済指標に示されるデータよりも弱いものだと、指摘されている。今月4月10日に行われるカナダ中銀政策金利決定会合では、政策金利据え置きが市場のコンセンサスとなっている。4月の会合では利下げ開始時期や経済・金利見通しに変化が見られるのではないかと予想されている。カナダ中銀が利下げを6月に開始するとの観測が高まっているが、FRBよりも早く利下げを開始したり、利下げ幅が大きくなった場合にはカナダドルが大幅に下落する可能性があるとして予想される。また3月の会合概要では、カナダ中銀の利下げ時期やリスク見通しについて、メンバーの間で意見が分かれていることが示されている。住宅市場の強さについての懸念があり、特に春の住宅市場が活発化する中、金利を早急に引き下げることは慎重な姿勢を維持している。住宅コストの高止まりによりインフレ率を2%に戻すことがより困難になる可能性も言及された。中銀は基調的なインフレ率(コアCPI)に加えて、需給ギャップ、企業の価格行動、インフレ期待、賃金と生産性にも重視しており、4月1日に発表されるビジネスアウトックサーベイには大きな注目が集まっている。また引き続き5日のカナダ3月雇用統計、16日カナダ3月消費者物価指数(CPI)にも注目したい。3月19日・20日に開催されたFOMCでは予想通り、金利が据え置きとなった。金利・経済見通しでは年3回の利下げが予想された。引き続きインフレが持続的に目標である2%に向かっていくとの確信できるまでは、利下げはしないとの意向が示された。相対的に見て米経済は堅調さを維持しており、今月もUSDドル高圧力が強くなると予測される。インフレが2カ月連続で低下しているなか、カナダ中銀が4月の会合で利下げ時期のヒントを出すとの期待も高く、カナダドル売りが進むとも予測され、USD/CADは1.32-1.38で推移すると予想。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当で人気のお土産』
カナダで人気のお土産はやはり、“メープルシロップ”です。赤いカエデの葉はカナダの国旗のデザインにもなっていますが、そのカエデの木の樹液から作られたのが、メープルシロップです。メープルシロップはパンケーキやワッフル、フレンチトーストにかけただけと思われがちですが、ベーコンやソーセージにかけたり、砂糖の代わりとして料理に使うと風味が違ったやさしい甘さを楽しむます。ケベック州発祥のメープルタフィーは冬祭りの定番です。作り方は雪の上、または氷の上に煮詰めたメープルシロップを細長く垂らし、それを棒で巻いたら出来上がりです。また、メープルシロップを使ったクッキーや紅茶、バター、ポップコーンなども人気があるようです。
カナダのお土産はメープルシロップだけではなく、カナダのお酒は世界でもよく知られており、一番売れているビールは「モルソンカナディアン」。カナディアンウィスキーは、「クラウンロイヤル」と「カナディアンクラブ」が有名です。また、ワイン愛好家には、オンタリオ州のナイアガラ半島とプリティッシュコロンビア州のオカナガンバレーのワインがお土産に最適です。甘いワインを好む人には、ナイアガラ半島で有名なアイスワインもお勧めです。他にもカナダならではのものとして、ハードソンのストライプ柄のコレクショングッズが挙げられます。「ハードソン」は、1670年に創業したカナダの百貨店です。白地に緑、赤、黄色、青のストライプの入った毛布や衣類などを長年販売しています。また先住民の芸術品もカナダならではのものです。イヌイットのソーブストーン彫刻やファースト・ネーションズのドリームキャッチャーなどが人気のお土産となっています。

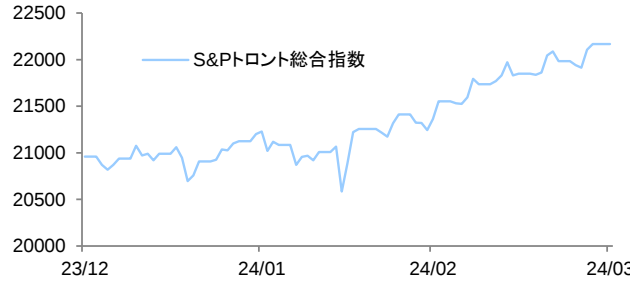
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	S&Pグローバル・カナダ製造業PMI	2月		49.7	48.3
3/6	カナダ銀行翌日物貸出金利		5.00%	5.00%	5.00%
3/8	雇用ネット変化率	2月	20.0k	40.7k	37.3k
3/8	失業率	2月	5.8%	5.8%	5.70%
3/14	製造業売上高(前月比)	1月	0.4%	0.2%	-1.1%
3/15	住宅着工件数	2月	227.5k	253.5k	223.2k
3/19	CPI(前年比)	2月	0.60%	0.3%	0.00%
3/19	CPI季調前(前月比)	2月	3.1%	2.8%	2.9%
3/22	小売売上高(前月比)	1月	-0.4%	-0.3%	0.9%
3/28	GDP(前月比)	1月	0.4%	0.6%	-0.1%

韓国ウォン相場

予想レンジ:

USD/KRW	1310	～	1360
KRW/JPY	10.99	～	11.49
JPY/KRW	8.70	～	9.10

(注) 100韓国ウォンあたりの対円レート

東アジア資金部ソウル資金室 山内 脩平

■ 先月の為替相場

3月のドル/ウォン相場は方向感に乏しい推移が継続。月初のドル/ウォンは1,331.5ウォンでオープンした後、月初の輸入企業のドル買いに支えられ堅調推移。1,330ウォン台後半で推移した後、6日夜にパウエルFRB議長による議会証言で改めて年内利下げ開始の方向性が確認されると米金利が低下。翌7日以降、ドル/ウォンは下落に転じ、1,320ウォンを下回った。

翌週11日は8日の米雇用統計を受けた早期利下げ期待の高まりからウォン買い優勢に。12日に月間安値となる1,308.0ウォンの安値をつけた。米CPIは6月利下げ開始との見方を変えるほどでもないものの、1,310ウォン付近がサポートラインと意識され輸入企業による決済需要などに支えられた。14日夜間の米PPIが予想以上の内容になると、米金利が急上昇。15日にドル/ウォンは急反発し、1,330ウォンを回復した。

翌週は日銀・FOMCなど中銀会合を控え、海外金利上昇への懸念から底型い値動きでスタート。ドル/ウォンは19日の日銀マイナス金利解除決定後、1,340ウォン台に上昇した。FOMCではややハト派な内容という見方から翌21日に1,320ウォン台まで下落した。しかし、22日に中国人民銀行が人民元の基準値を市場予想以上に元安水準に設定。人民元が急落するとともに、ウォンも連れ安となり、再び1,340ウォン付近まで上昇した。

翌週は人民元の基準値発表の時間帯前後で人民元が上昇するとウォンも強含むなど、人民元動向を警戒した値動きとなるも、底堅い推移が継続。27日にドルが強含む推移すると、ドル/ウォンは1,348.3ウォンまで上昇し、年初来高値を更新した。28日には月間高値となる1,353.0ウォンまで上昇し年初来高値を更新。しかし、上昇が一服すると売りが強まり一時1,340ウォン台前半まで調整が進み、1,346.2ウォンでクローズした。

■ 今月の見通し

4月のドル/ウォンは上値重い推移を予想。

3月FOMCでの政策金利見通しでは年内3回の利下げ見通しが維持され、6月利下げ開始予想が優勢となるも依然不確実性は残る。しかしながら、米国の年内利下げ開始との見方に変化は無い以上、米金利の上昇余地は限定的で、ドル/ウォンが高値を更新し続ける展開は想定しづらい。

韓国の2月輸出額は約524億ドルと前年同月比4.8%増となり、中でも半導体は前年同月比+66.7%と全体をけん引。対中貿易収支は22年9月以来の黒字に転換するなど、輸出の回復を通じて実需面はウォン買いが徐々に勢いを増すだろう。また、ハイテク関連株への資金流入により、株価も堅調を維持しており、これらもウォン買いに繋がろう。上記より、ややレンジは切りあがるものの、4月のドル/ウォンの上値は限定的で次第にウォン買いが強まる展開を予想する。

尚、4月10日には総選挙が行われる。尹政権の中間評価と位置付けられる中、世論調査での支持率は与党・野党拮抗した情勢が伝えられている。現時点で為替相場への影響は限定的と見るが、動向には注意したい。

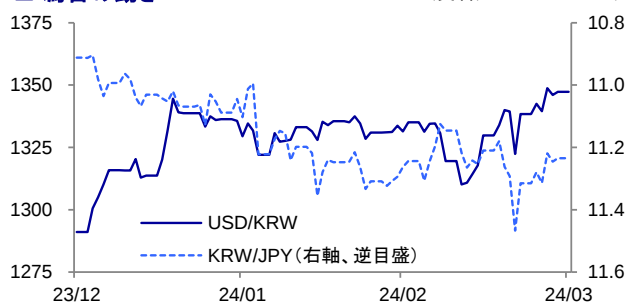
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で人気のお土産』

韓国を代表するお土産としては、高麗人参でしょうか。高麗人参の効能としては、成人病治療やその予防・健康回復・滋養強壮といったものがあります。お手軽なものはスティックに封入されたゼリーのようなものになりますが、体調がすぐれないときや風のひき始めに食べると効果があり重宝します。味は美味しいとは言えないものの、何とも言えない高麗人参の苦みが、体に良いものだと思わせます。高麗人参の商品は多岐にわたり、根がそのまま売っていたり、粉末を溶かして飲むタイプもあります。価格帯も様々なので、是非予算に合わせて楽しんでみてください。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	貿易収支	2月	2000M	4290M	300M
3/1	輸出(前年比)	2月	1.4%	4.8%	18.0%
3/1	輸入(前年比)	2月	-11.7%	-13.1%	-7.8%
3/5	GDP(前年比)	2月	2.2%	2.2%	2.2%
3/6	CPI(前年比)	2月	3.0%	3.1%	2.8%
3/13	失業率	2月	3.0%	2.6%	3.0%
3/26	消費者信頼感	3月	-	100.7	101.9
3/26	小売売上高(前年比)	2月	-	13.7%	8.2%
3/29	鉱工業生産(前年比)	2月	3.5%	-	12.9%

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 31.25 ~ 32.25
TWD/JPY 4.55 ~ 4.80

東アジア資金部台北室 久本 和樹

■ 先月の為替相場

3月のドル/台湾ドルは上昇した。

月初の3月1日は31.600でオープン。米国株が史上最高値を更新して上昇中、台湾株も連れ高となる展開に。外国人投資家による台湾株買い圧力の強まりを受けて、31.50近辺まで下落した。その後、8日に発表された台湾2月CPIが市場予想を上回る結果となったことを受けて、台湾ドル買い圧力が一段と強まる展開となり、一時31.410まで下落した。

月央になると、12日海外時間に発表された米2月CPIが市場予想を上回る結果となったことを受けて、米早期利下げ観測が後退する展開となり、米金利が急速に上昇。ドル買い圧力が強まり31.50台まで上昇した。その後、14日海外時間に発表された米2月PPIについても市場予想を上回る結果となっていたことを受けて、米金利の上昇が加速し、31.80台半ばまでドル買いが進む展開となった。

月後半に入ると、20日海外時間のFOMCにおいて、2024年内の利下げ見通しが維持されたことがハト派な内容と捉えられ、一時ドルが売り戻される展開に。21日には台湾中銀による予想外の利上げも実施され、台湾ドル高へ転じる材料が多く見られた。しかし、22日に中国での利下げ観測が高まる中、急速に人民元安が進んでいた影響でアジア通貨安が進み、台湾ドルも連れ安となった。また、月末にかけては外国人投資家による台湾株の利益確定売りや、国内投資家による海外投資資金送金が見られていたことが一段と台湾ドル安を後押しし、一時32.039まで上昇した。その後月末にかけては、32.00を挟み底堅く推移する展開となった。

■ 今月の見通し

4月のドル/台湾ドルは下落を見込む。

3月はFOMCによる年内利下げ見通しの維持が表明された他、、台湾中銀による予想外の利上げが実施され、ドル売り台湾ドル買い材料が揃っていた。しかしながら、足許は外国人投資家による台湾株利益確定売りや、国内投資家による外国債券ETF購入などが見られており、資金需給の観点でドル買い台湾ドル売り圧力が強まり、ドル/台湾ドルは上昇する展開となった。

4月のドル/台湾ドルについては、下落する展開を見込む。米国においてはFOMCにおいて年内に3回の利下げ見通しが示され、年央にも利下げを開始する確度が高まっていることから、ドル買い圧力も早晚一服するであろう。また、台湾においては4月から電気料金の引き上げ等も控えており、今後一段とCPIやインフレ期待の上昇がみられる場合においては、台湾金利の上昇も警戒される。その為、台湾ドル買い圧力は強まりやすく、ドル/台湾ドルは下落に転じやすいであろう。但し、台湾国内投資家による海外投資資金送金が想定以上に大きくなる場合においては、台湾ドル売り圧力が強まる展開にも留意したい。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で人気のお土産』

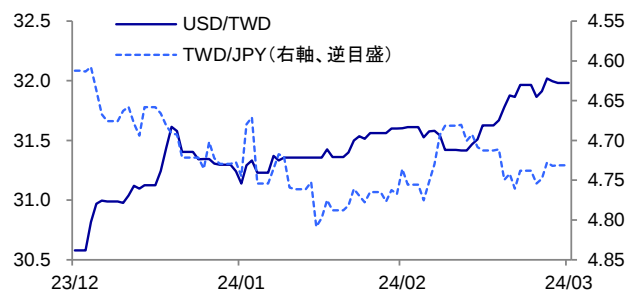
当地で人気の旅行先は、「パイナップルケーキ」、「ヌガー」、「ドライフルーツ」、「台湾茶」です。

パイナップルケーキはどこでも売っていますが、買う場所によって味が全然違うので、留意が必要です。私のおすすめは、ホテルオークラと一番屋です。ホテルオークラのパイナップルケーキは(かなり)高価ですが、包装が非常にきれいで有名です。一番屋のパイナップルケーキはそこまで値は張りませんが、非常においしいものになっています。

台湾茶も色々なところで売っていますが、私のおすすめは、新純香というお店です。こちらのお店は、お金を払えばその場で三種類ほどのお茶を試しに飲むことが出来るようになっています(日本語OK)。気に入った味があれば当然お土産を買って帰ることが出来ますし、ドライフルーツも一緒に売っています。丁寧にに入れて説明もしてくれるので、90分ほど時間がかかりますが、余裕があれば非常におすすめのお店になっています。

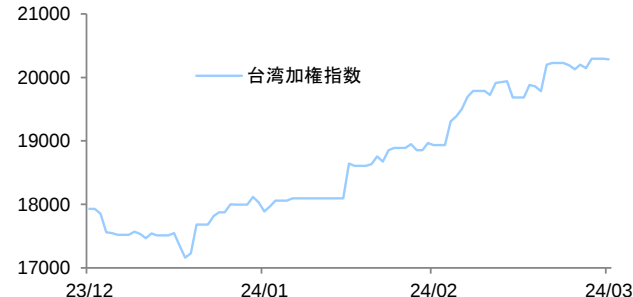
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/5	外貨準備高	2月	-	569.42B	569.54B
3/7	CPI (前年比)	2月	2.54%	3.08%	1.79%
3/8	輸出 (前年比)	2月	1.10%	1.30%	18.10%
3/8	輸入 (前年比)	2月	-2.50%	-17.80%	19.00%
3/8	貿易収支	2月	3.68B	7.89B	2.49B
3/20	輸出受注 (前年比)	2月	1.30%	-10.40%	1.90%
3/21	公定歩合	1Q	1.875%	2.000%	1.875%
3/22	失業率	2月	-	3.40%	3.39%
3/25	鉱工業生産 (前年比)	2月	-	-1.10%	15.98%

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.8000 ~ 7.8300
HKD/JPY 18.90 ~ 19.50

東アジア資金部 Ken Cheung

■ 先月の為替相場

【3月の香港ドル直物相場】

3月の香港ドル直物相場は5か月ぶりの安値である7.8297にタッチした後、7.82付近で推移した。米国連邦準備制度理事会(FRB)は政策金利のターゲットを5.25—5.5%に据え置き、政策金利見直しにおける年内の利下げ予想も3回から変更しなかった。現在想定されているFRBの利下げサイクルを鑑みると、すぐに米ドルペッグ制の取引レンジ内における香港ドル高上限である7.75まで上昇する可能性は低い。2019年のFRBによる利下げ局面を振り返ると、むしろ、しばらくは取引バンド内の香港ドル安水準で推移するだろう。株式市場に目を向けると、ハンセン株式指数の上昇と共に投資資金の流入は増加しており、ストック・コネクト(中国本土市場との株式相互取引制度)での流入は1000億香港ドルを超えた。しかし、不動産市況は依然悪く、不動産市場の過熱抑制策を撤廃したことで一時的に上向いたものの、根本的な解決には至っていない。また、香港の立法機関が国家安全保障法第23条を急速に可決したことも香港市場の盛り上りを妨げる事となった。しかし、2020年5月に国家安全保障法が提案された際の値動きを見ると、香港ドルの1年物フォワードポイントが600ポイントまで急上昇したのに対して、今回は500ポイント付近で推移しており、控えめな動きにとどまったと言えるだろう。

【3月の香港ドル金利市場】

短期の香港ドルHIBORカーブは四半期末の季節要因で上昇し、1か月物は4.8%台、3か月物は4.7%台まで上昇した。しかし、そうした要因を除けば、香港金融管理局(HKMA)による為替介入もなかったことからアグリゲートバランスは45億香港ドル近辺に据え置かれており、全体としてみると安定推移した。FRBがFOMC会合において、年内の利下げ開始を改めて強調したこともあり、1か月物HIBORと比較して3か月物物はHIBOR低位で推移し、香港ドルスワップ金利の上昇も全体的に抑制された。季節要因を受けた短期の香港ドルHIBORの上昇と香港ドルスワップ金利の安定推移により、香港ドルスワップ金利のキャリートレード(3年固定金利払い、3か月物香港ドル HIBOR受け)は増加した。

■ 今月の見通し

【4月の香港ドル直物相場】

足元の米ドル高地合いが変わらない中、香港ドル直物相場は7.8付近で推移すると考えている。直近のFOMC会合ではFRBによるハト的なスタンスが確認されており、米政策金利は6月会合に利下げが開始されるとの見方が強まった。しかし、年内の合計利下げ回数は2~3回(1回を0.25%と想定)にとどまると見込まれる事から、米ドルと香港ドルの金利差は縮まらないだろう。四半期末を超え、4月に入れば香港ドルの流動性逼迫が緩和し、米ドル買い/香港ドル売りのキャリートレードも活況となることで香港ドル直物相場の上値は重くなるだろう。中国および香港の景気は改善の兆しが見えてきているものの、今年後半に控えている米大統領選次第では、地政学リスクの高まりや投資制限の強化といったリスクに繋がる可能性があり、外国人投資家は対中、対香港投資に慎重な姿勢を続けている。米ドルペッグ制に伴う高い資金調達コストや、低迷する香港不動産市況によって香港ドル資金需要も引き続き低迷したままだろう。

【4月の香港ドル金利市場】

香港ドル金利は新年度に入ってから低下していくと予想する。短期的な目線では、FRBの利下げ織り込みの後ずれやHKMAのアグリゲートバランスが据え置かれている事もあり、足元の水準で安定的に推移するだろう。しかし、中期的な目線では米政策金利は年内3回の利下げが織り込まれているため、香港ドル金利は米金利に追従し、低下していくだろう。しかし、現状はIPO市場が低迷しており、香港ドル資金需要も乏しい。第二四半期に入り、配当支払いに向けた香港ドル需要の高まりが出てこない限りは、香港ドル金利は米金利と比べて低い水準が続くだろう。

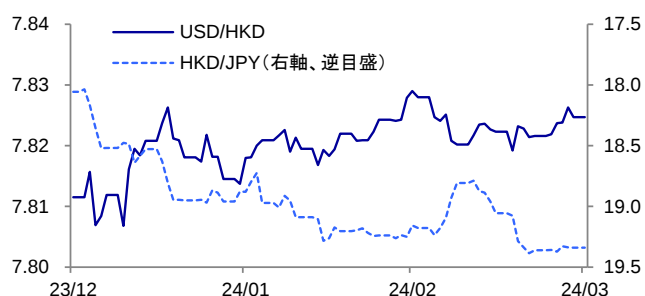
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で人気のお土産』

香港は食文化で有名ですが、お土産として持ち帰ることに適している食品は歴史的にみてもあまり多くはありません。しかし、近年香港地域独特の味付けのクッキーが登場しており、これらはお土産として適しているといえるでしょう。食品以外に目を向けると、ホーカーやナイトマーケットはローカルなお土産を買う場所として観光客に人気です。ここでは様々な種類の商品が取り扱われており、選択肢は多いです。しかし注意しないといけないのは、そこで購入できる商品の大半は中国本土で製造されているという点です、香港の職人技や伝統を真に表したお土産を購入するのは少し難しいかもしれません。とはいえ、真の香港産土産が全く手に入らないというわけではありません。例えば香港のデザイナーが作成したアート作品やファッションアイテムのみ取り扱っているお店などもあり、こうしたお店には職人技が光る工芸品からユニークなファッション・アクセサリーまで地元で生産された商品を厳選してそろえています。そのようなお店に行けば香港製のものが手に入るでしょう。

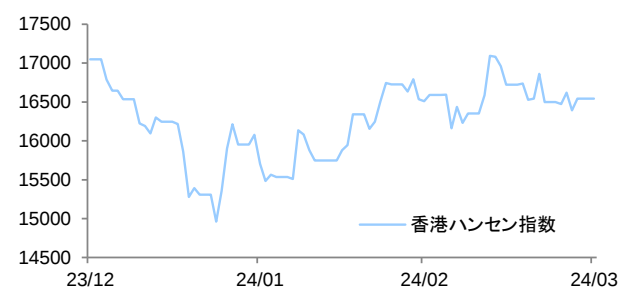
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
2/28	GDP 前年比	4Q A	4.3%	4.3%	4.3%
3/1	小売売上高(価額, 前年比)	1月	6.9%	0.9%	7.8%
3/5	S&P Global Hong Kong PMI	2月	-	49.7	49.9
3/7	外貨準備高	2月	-	\$425.1b	\$423.1b
3/18	失業率(季調済)	2月	2.9%	2.9%	2.9%
3/21	CPIコンボジット(前年比)	2月	2.2%	2.1%	1.7%
3/26	輸出(前年比)	2月	2.0%	-0.8%	33.6%
3/26	輸入(前年比)	2月	-1.0%	-1.8%	21.7%
3/26	貿易収支(HKD)	2月	-31.0b	-41.7b	3.6b

中国人民元相場

予想レンジ:	USD/CNY	7.0500	～	7.2500
	CNY/JPY	20.00	～	21.28
	100JPY/CNY	4.7000	～	5.0000

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 末吉 小絵

■ 先月の為替相場

ドル人民元(USDCNY)は7.20の節目を超えて推移。

USDCNYは1日、7.19台前半でオープン。全人代を前に控え、様子見ムードから100Pips程度の狭いレンジで推移。

4日、7.19台後半でオープン。5日に開幕した全国人民代表大会(全人代)では政府活動報告において、1兆元の超長期特別国債発行といった施策も発表されたが、GDP目標等の主要政策目標値は概ね市場予想通りとなり、為替相場に対する影響は限定的となった。その後は新規材料に欠ける中で動意に乏しい推移が続いた後、週末にかけては全般的なドル売り地合いとなった他、8日夜間の米雇用統計のまちまちな結果を受けてUSDCNYは一時7.17台後半へ下落した。

11日、7.19近辺でオープン。9日に公表された中国2月CPIは春節による季節要因後も押し、6か月ぶりにプラス圏に浮上。中国株が堅調な動きとなる中、元買い優勢で推移し一時7.17台前半まで軟化。しかし、米2月CPIや米2月PPIコア事前予想を上回ると、ドル高優勢となり7.19台後半へ値を戻した。

18日、7.19台後半でオープン。20日に公表されたLPRは事前予想通り金利据え置きとなり動意なし。FOMC後にはオフショアで先行してドル高が進んだが、オンショア人民元は7.20手前で上値を抑えられる展開。非常に狭い値幅での推移が続いた後、22日の寄り付きで7.20の節目を上抜けて急騰。夕方には7.23台を付ける場面も見られた。

25日、7.21台半ばでオープン。7.20の節目をブレイクした直後、注目されていたPBOC基準値が7.0996と前営業日より元高水準となったことからオープン直後にUSDCNY相場は200Pips近く急落。その後、午後に入ると再びドル買いが強まり7.21台半ばまで水準を戻す展開。26日以降についてもPBOC基準値が徐々に元高の設定となっていくにも関わらず、USDCNYはじりじりと元安方向に推移し、28日には7.22台後半まで上昇。

■ 今月の見通し

USDCNYは高値圏での推移が継続することを予想する。

ドルの主要通貨に対する堅調推移を背景に、USDCNYは年初来意識されていた7.20の節目を突破して推移しているものの、PBOC基準値は引き続き7.10前後の水準での設定となっており、2%の上限となる7.23台が上値の目途となっている。全人代は概ね市場予想通りの内容であり、5%の成長率達成はチャレンジングな目標設定との認識。不動産市場も政府による対策が講じられているが目立った回復が見られない中、超長期特別国債発行による経済刺激策が期待される状況。経済回復期待による元高が見込めない中、中米金利差を背景とするドル高元安圧力が優勢となるが、昨年8月から続いている市場実勢とPBOC基準値の乖離が続く限りはUSDCNYは上値を抑えられる格好で推移することから、これ以上のドル人民元上昇は想定せず。

米国ではCPIをはじめとする経済指標が堅調な中、3月のFOMCでも金利据え置きを決定し、ドットチャートでは年内3回の利下げ予想が維持される結果となった。利下げ時期の判断は経済データ次第というFedのスタンスが続く中、ドルの値動きは経済指標に一喜一憂する展開が想定されるが、USDCNYは上昇余地が限定的である中、寧ろ経済データ下振れによるドル安人民元高を警戒する必要がある。

その他、株式市場の回復により外国人投資家は資金流入に転じつつあることや、貿易黒字による実需の人民元買いはドル安元高要因として認識したい。また、不確定要因として米大統領選挙や中米関係を巡るヘッドラインには警戒したい。

JPY/CNYに関しても、ドル円が1990年以降の水準を更新する等円安が進む中、JPY/CNYについても管理変動相場制採用以降、最安値を更新し4.7458(CNY/JPY=21.071円)をつけた。3月末も安値圏での値動きが継続しており、引き続きJPY/CNYの動向にも注目したい。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で人気のお土産』

中国では地域によって特徴的な山、特産品も様々です。春節や労働節のような長期祝日明けには部内の皆が色々なお土産を持ち寄って、机の上がお土産で溢れます。お土産はクッキーや飴のような定番のものから、お茶のような中国っぽいもの、鳥の足やイカといった変わり種まで様々です。

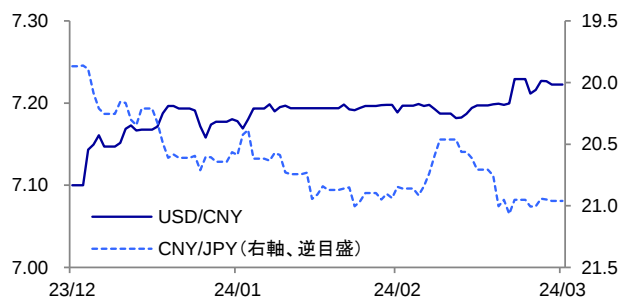
一方で、中国から日本に一時帰国する際などによく持っていくお土産としては、前述しているお茶は定番かと思います。中国茶は福建の烏龍茶・江南の緑茶・雲南のプーアル茶といった日本でも聞きなじみがあるお茶から、カボスのような果物の中に茶葉を詰めているもの、お湯を注ぐと花が咲くお茶等、かなりの種類があり、スーパーから百貨店・路面の専門店といった様々な場所で手軽に試飲して買うことができるので選ぶのも楽しいです。

他にも中国の調味料は特徴的で手軽に持ち運べるので料理をする方に向けてのお土産としておすすめです。

最後に、上海の食べ物といえば上海蟹のイメージが強いかと思います(本当は他にもありますが・・・)。先日、上海浦東空港で上海蟹の瓶詰を見つけ、値段は張りましたが即買いしてしまいました。こちらも日本では中々手に入らないのでカニ好きにはオススメです！

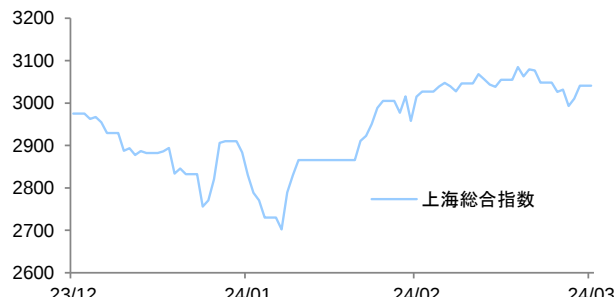
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	財新製造業PMI	2月	50.7	50.9	50.8
3/5	財新非製造業PMI	2月	52.9	52.5	52.7
3/7	貿易収支(年初来)	2月	\$106.80b	\$125.16b	-
3/9	CPI(前年比)	2月	0.3%	0.7%	-0.8%
3/9	PPI(前年比)	2月	-2.5%	-2.7%	-2.5%
3/18	工業生産(年初来/前年比)	2月	5.2%	7.0%	-
3/18	小売売上高(年初来/前年比)	2月	5.6%	5.5%	-
3/18	都市部固定資産投資(年初来/前年比)	2月	3.2%	4.2%	-
3/20	LPR1年物	-	3.45%	3.45%	3.45%
3/20	LPR5年物	-	3.95%	3.95%	3.95%

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3300 ~ 1.3700
SGD/JPY 108.50 ~ 114.00

アジア・オセアニア資金部 松本 彩花

■ 先月の為替相場

先月のUSD/SGDは下に往って来い。1日、USD/SGDは1.34台半ば付近でオープン。1日発表の米2月ISM製造業景気指数、5日発表の米2月非製造業景気指数等の月初発表の一連の米経済指標が弱含んだことを受け、ドル売り優勢の地合いに。USD/SGDは緩やかに値を切り下げ、7日には1.33台前半まで下落。8日、米2月雇用統計については非農業部門雇用者数が市場予想を上回った一方で、失業率が市場予想対比悪化したことが嫌気されドル売りの流れが更に加速。USD/SGDは一時1.32台後半まで下落した。

12日、米2月CPIの結果が市場予想対比上振れたことを受け、ドル買いが優勢となり、USD/SGDは1.33台前半まで上昇。更に14日発表の米2月PPIの結果についても市場予想対比強い結果となったことから、米インフレの根強さが示されドル買いの流れが継続。USD/SGDは1.33台半ばまで上昇した。その後は翌週にFOMCやBOJを控えている中で積極的な動きは手控えられ1.33台前半での小幅な値動きに終始。

19日、日銀がマイナス金利解除を決定。一方で声明文にて「現時点での経済・物価見通しを前提にすれば、当面緩和的な金融環境が継続する」との保守的な姿勢が示されたことにより対円でドルが上昇。対円でドル買いが強まった流れが他アジア通貨にも波及し、USD/SGDも一時1.34台前半まで上昇した。20日、注目の3月FOMCでは大方の予想通り金融政策現状維持となり、相場への影響も限定的となった。

22日、人民元が心理的節目である7.2を上抜け急落。ドル買い・アジア通貨売りの流れが優勢となり、USD/SGDもその流れを受けて一時1.35付近まで上昇。25日、シンガポールの2月CPIが強い結果となったことから、SGDが買われUSD/SGDは1.34台半ば付近まで下落。その後月末にかけては新規材料に乏しく、1.34台半ば付近での小幅な値動きとなった。

■ 今月の見通し

今月のUSD/SGDは堅調推移を予想。

先月のUSD/SGDは米国の経済指標や各国中銀イベントにより一進一退の動きとなった。前月発表の米雇用関連指標は失業率が悪化したものの非農業部門雇用者数は予想対比上振れる結果となっており、インフレ関連指標は依然底堅い。FRBは3月会合にて「雇用の伸びは強さを維持しており、インフレはこの1年で緩和してはいるものの高水準」との声明文を発表。会合後のパウエル議長記者会見においても利下げタイミングについて直接的な明言は避けられた。一層のインフレ沈静化が確認できるまで利下げ開始時期については慎重な姿勢が示されるものと考えられるため、ドルが堅調な地合いは継続するものと見込む。

一方で、シンガポールについては2月総合CPIが前年比+3.4%と市場予想および前回結果を上振れた。また、2月コアCPIについては前年比+3.6%と2023年7月以来の高水準を記録。尚、貿易省とMASはインフレ加速に関して「旧正月に伴う季節的影響を一部反映した食品とサービスの価格上昇が主導した」との声明を発表。今後のインフレ動向に関しても、食品や旅行関連サービスの値下がりや輸入コスト圧力の低下と共に年内は緩やかに軟化していく見通しであり、今回のインフレ加速についてはあくまで一過性要因によるものとの見解。今月はMAS会合開催が予定されているが、シンガポール国内のインフレ動向について見極めが必要な状況下、金融政策変更は想定されづらいと考える。

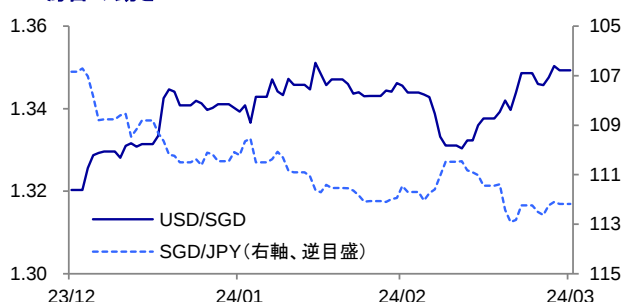
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人気のお土産』
過去、友人にお渡しして好評だった物品をご紹介します。

・SUPERMAMAの陶器
<https://supermamastore.com/>
有田焼とのコラボ食器が素晴らしい。デザインは当地流。結婚のお祝いとかで渡すと凄く喜ばれる。
・FULLERTON HOTELのMERLION COCKTAIL GLASS
<https://shop.fullertonhotels.com/product/the-fullerton-shop-fullerton-brand/fullerton-merlion-cocktail-glass>
小さいマーライオンが内在されているグラス。お手頃価格であるが希少性とデザイン性が高い。これもお土産として渡してハズレ無し。
・EU YAN SANGの漢方
<https://karadakampo.com/column/traditional/2574/>
「帰国ついでに買ってきて」と言われるお土産No1。冬虫夏草を飲めば風邪をひかないのだ(個人経験)。なお、発祥はマレーシアとのことで当地オリジナルと言えるかは微妙。
・PARTY SMART
<https://himalayawellness.sg/products/himalaya-partysmart-5-capsules-x-5-hangover-relief>
当地でたまに売っている天然ハーブを基にしたお薬。会食が多い人は大体知っている必須アイテム。日本でも買えるかもしれない。
以上、当地で人気かどうかは知らないが、個人的に大変重宝している物品をご紹介させて頂いた。一般的に人気なお土産については、是非ガイドブック等でご確認を頂きたい。
(アジア・オセアニア資金部 成田)

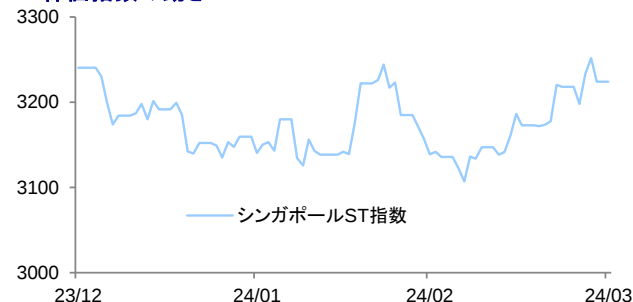
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/5	小売売上高(前年比)	1月	7.1%	1.3%	-0.4%
3/18	非石油輸出(前年比)	2月	4.7%	-0.1%	16.8%
3/25	CPI(前年比)	2月	3.2%	3.4%	2.9%
3/26	鉱工業生産(前年比)	2月	0.5%	3.8%	1.1%

タイバーツ相場

予想レンジ: USD/THB 35.80 ~ 37.30
THB/JPY 4.12 ~ 4.18

アジア・オセアニア資金部 バンコック室 鈴木 一勲

■ 先月の為替相場

3月のドルバーツは年初来高値を更新し、前月末比で上昇。
35バーツ台後半で取引を開始すると、弱い米経済指標により米金利が低下して上値重く推移。タイ2月CPIは5か月連続のマイナスを記録してディスインフレが意識されたが、事前予想にインライン且つセーター首相からタイ中銀に対する利下げ要請も無く、相場への影響は軽微。半期に一度のFRBパウエル議長の議会証言も特にサプライズ無しで無難に通過。8日に米2月雇用統計が発表されると、雇用者数の伸びは良かったが、失業率の上昇と1月分の下方修正が響き、市場はドル安で反応。一時35バーツ台前半まで下げたが、結局35バーツ台半ばに戻って越週。

中旬、タイ選管委員会が最大野党である前進党の解党をタイ憲法裁に要請。これが嫌気されてドルバーツは小幅に上昇。同日夜に発表された米2月コアCPIが予想を上回ると上昇に弾みがつき、ドルバーツは35バーツ台後半に達した。翌日には35バーツ台半ばまで戻したが、米2月PPIが予想を上回り、新規失業保険申請件数が予想比減少したため、相場が米金利上昇とドル買いで反応。再び35バーツ台後半で底堅く動いた。日銀会合後のドル円上昇がドルバーツにも波及すると、36バーツ台前半まで上値を伸ばしたが、FOMCの金利据え置きは予想通りで年内の予想利下げ回数も3回に据え置かれたため、日銀会合後の上昇分を吐き出してドルバーツは36バーツちょうど付近へ下落。

下旬、スイス中銀がサプライズで利下げを行ったことや、中国株の下落をトリガーにドル人民元レートが節目と言われていた水準を上回って人民元安に振れたため、36バーツ台半ばまで上伸。その後は月末且つ四半期末、イースター休暇を意識して次第に調整ムードとなり、36バーツ台前半を中心に動いたが、アジア通貨に対するドル高基調の中、27日・28日と連続して年初来高値を更新。36バーツ台半ばで堅調な動きとなった。

■ 今月の見通し

4月のドルバーツは上値を試す底堅い動きを予想。FOMCでFRBがタカ派だったわけではないが、マイナス金利解除後も緩やかな姿勢を維持するとした日銀、G10国の中で先んじて利下げをしたスイス中銀、ハト派な印象の英中銀の姿勢が主要通貨に対する相対的なドル高を招いた。この状況が4月も続く可能性が高く、タイ経済の状況やタイ中銀の政策変更可能性が低いことを勘案、ドルバーツは3月の動きを踏襲すると見ている。

4月10日にはタイ中銀MPCが開かれるが、最近、4〜6月期にタイ中銀が50bpも利下げを行うと予想するタイ大手銀行の予想が発表された。MPCのスケジュール上、2024年2Qには4月と6月の2回しかMPCがないため、2回連続利下げという大胆な予想となる。但し、タイ中銀の予想では、今のディスインフレは一時的でタイ政府が実施しているエネルギー価格の補助が終了する2Q以降はヘッドラインのインフレが上向くことになっている。

加えて、未だ不透明感満載ながら、1万バーツ給付政策も与党・タイ貢献党が公約に掲げた以上、簡単に取り下げすることも出来ないため、インフレ要因である以上は2Qに利下げに踏み切れることは困難だろう。

そもそも、足許のタイ経済は特に製造業中心に新規受注指数の悪化が周辺国対比で目立っていて、同じ外需依存国であるベトナム等と比較してもその悪化ぶりが際立つ。内需もパツとしない状況であるため、動けないタイ中銀と芳しくないタイ経済という構図はバーツの重しとなるだろう。

余程弱い米経済指標や強い中国の経済指標が出なければ、タイ中銀MPC通過後は経済指標を1つ1つ確認しながら年初来高値圏である36バーツ台をメインにレンジ内で動くと思われるため、4月のドルバーツはしっかりと推移すると予想している。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で人気のお土産』

タイ⇒日本と日本⇒タイ、各出発地ペースで人気のお土産をご紹介します。

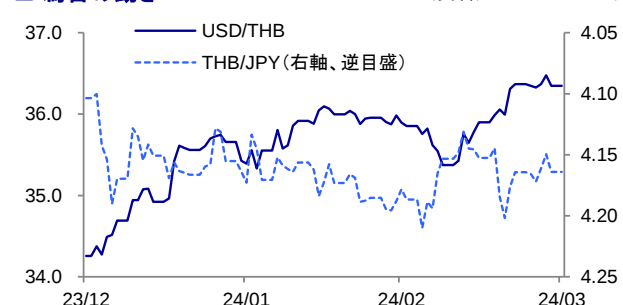
先ずタイ⇒日本のお土産ですが、ドライフルーツや練乳入りで甘いタイティー(チャトラム)の粉末、タイ産はちみつ(チューブ入り)がお土産として受けが良かった印象があります。定番コアラのマーチ等も良いですが、リアルなタイの味覚をお届け出来るものとしておススメです。

そして、隠れた人気グッズだと思うのは、DEAN&DELUCAのバッグです。恐らく駐在員の奥様方から人気が広まっていますが、バンコク限定デザインはタイ好きな女性に限らず好評なようで、ショッピングモールでこのデザインが良いというビデオ通話を日本のご家族やご友人としているタイ在住の方々、出張で来られた方を良く見かけます。実際、私の妻が妻の友人へプレゼントしたところ、非常に好評だったようです。(限定モノって惹かれますよね！)

次に日本⇒タイですが、日本のお菓子は間違いありません。今何がタイの人々の注目度が高いのか聞いてみたところ、東京駅構内にも売っているNYパーフェクトチーズケーキ、限定版東京バナナが注目が高いとInstagramを見せてくれました。日本旅行のついでに第3者から注文を集めて手数料を上乗せして日本のお菓子をタイで売っている人もいると教えてもらい、中々商売上手だなと感じた次第です。言われてみると、一時帰国で東京駅のお菓子売り場に並んだ時、タイ語で電話しながら大量にお菓子を買っているタイの方が隣にいたことを思い出しました。日本で注目の高いお菓子はタイでも日本好きな人々の間で話題になっています。

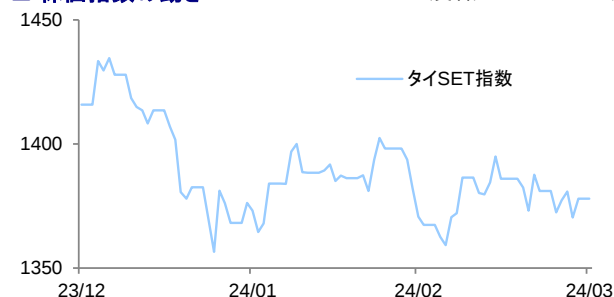
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/5	CPI YoY	2月	-0.80%	-0.77%	-1.11%
3/5	CPIコアYoY	2月	0.48%	0.43%	0.52%
3/7	消費者信頼感指数	2月	-	57.7	56.9
3/26	自動車販売台数	2月	-	52,843	54,814
3/26	輸出(通関ベース)YoY	2月	4.15%	3.60%	9.99%
3/26	輸入(通関ベース)YoY	2月	2.05%	3.20%	2.60%
3/26	貿易収支(通関ベース)	2月	-\$573M	-\$554M	-\$2,758M

マレーシアリング相場

予想レンジ:	USD/MYR	4.70	～	4.80
	MYR/JPY	31.25	～	32.26
	JPY/MYR	3.10	～	3.20

マレーシアみずほ銀行 内田 壘

■ 先月の為替相場

先月のリングギット相場は上旬にかけては前月からのリング買い優勢の流れでUSD/MYRは下落した一方、中旬以降は米国の物価指標上振れを材料にドルが上昇。

上旬は、前月からのリング買い優勢相場の中、USD/MYRは一時4.67台前半まで下落し約2か月ぶりの4.70割れ。6日のパウエル議長による議会証言では言及内容自体は想定内だったものの、利下げ時期に対する更なる後ずれ観測が後退し市場はドル安で反応。USD/MYRは4.7割れの水準まで下落した。7日のマレーシア中銀政策会合では、政策金利は市場予想通りの3.0%で据置きとなった一方、アブドゥルラシード中銀総裁がリング安に対して再び言及したことでリング買いに安心感を与えた。

中旬は米物価指標の上振れを材料にドル高が進行しUSD/MYRは4.7台に戻した。8日発表の米雇用統計はヘッドラインこそ上振れしたものの、前回値が下方修正された点に加え失業率が上昇したことに市場がドル売りで反応。週明け11日は4.68を中心としたリング高水準で推移。12日の馬鉱工業生産は市場予想を大幅に上回る4.3%の伸びを示した他、同日NY時間の米CPIでは前年比+3.2%とインフレ上昇を示す内容。まちまちな指標発表で市場は様子見。一方13日米PPIではCPI同様の若干上振れだったが市場は立て続けにインフレ高進を示す指標発表が出たことを材料視し利下げ先送り観測が再燃しドル高が進行した。

下旬は21日FOMCに市場の注目が集まった。18日発表の2月貿易統計は輸出が-0.8%と再びマイナス成長となった。主力のE&Eや石油製品が大幅マイナスを記録したことで先行き経済に対する悲観的な見通しが広がりリング安が進展する展開。また21日早朝発表のFOMCは利下げ回数見通しに修正が入らずUSD/MYRは一時4.70割れ水準まで下落。しかし、リング買戻しは一時的。堅調な米住宅指標でドル買い攻勢が強まるとUSD/MYRは再び4.74台まで戻す不安定な値動きとなった。

■ 今月の見通し

今月のリングギット相場は軟調な展開を予想する。

先月21日FOMCで発表されたドットチャートでは年内利下げ回数の見通しが3回維持の結果となったことは前述通りだが、FOMC当日こそ市場はハト派寄り判断としてドル売りで反応したものの、結局続かずドル巻き戻しに転じた。先月発表された米国物価指標では物価下落の進展が後ずれし、年内利下げ回数が減るリスクを市場が織り込む結果となった。

国内では貿易統計で輸出のマイナス成長が発表される中、明るい材料が出て来ず、リングを積極的に買う材料は見出しづらい。唯一の材料として、政府が輸出企業や政府系企業に対してリング買いを促す声明を出している点くらいである。ただ今回のリング買い奨励に関する政府発表を踏まえ、リング買いフロー増加に伴う一方向的なリング安の動きは限定的となる。

ただし、欧州では3/21にスイス中銀が利下げに踏み切った他、ECB高官も資金の伸び鈍化に対して確信を高めているとの報道が入るなど、主要国が利下げ姿勢に入り始めている点は見逃せない。

上記を踏まえると、国内材料で積極的なリング買いの材料が見いだせない状況下、ドル相場を見ながらの展開が引き続きのメインシナリオであり、今月はUSD/MYRで言えば上値の目途を見定めながらも上下に不安定な値動きとなる展開を予想する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で人気のお土産』

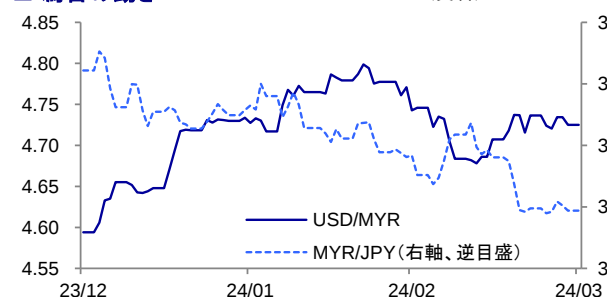
マレーシアの定番お土産と言えば、チョコレートやお茶が上がると思います。特にお茶については、高原リゾートとして人気の高いキャメロンハイランドの紅茶は安定的な人気です。様々なフレーバーが用意されており、お手軽なティーバックから本格的な茶葉までバラエティも豊富でお土産で人気な理由がよく分かります。個人的には、アジアンフーズの調味料も仲の良い友人家族に配ったりしています。チキンライスや肉骨茶が比較的オーソドックスなマレー料理ですが、その他にもスパイス王国マレーシアゆえインド、中国など色々な国のパウチをスーパーでも手軽に買う事が出来ます。今ではネットで検索すればレシピも出てきますが、こういったパウチの調味料で食べるとアジアンフードのな何とも言えないフレーバーを手軽に味わえるのがメリットだと思います。

また、ローカルのインスタントラーメンも注目です。ググるとすぐに出てくるペナンホワイトカレーヌードルはココナッツミルクのクリーミーな風味と癖になる辛さで我が家の食料庫には常駐品であり、日本に一時帰国する際はお土産の一品として使っています。

お土産ではないですが、大切な人へのプレゼントとして、マレーシアの伝統衣装バティックもよく活用させてもらっています。なかなかカラフルな色と模様ですが、当地では伝統衣装として認知されており、公務員の正装になっています。

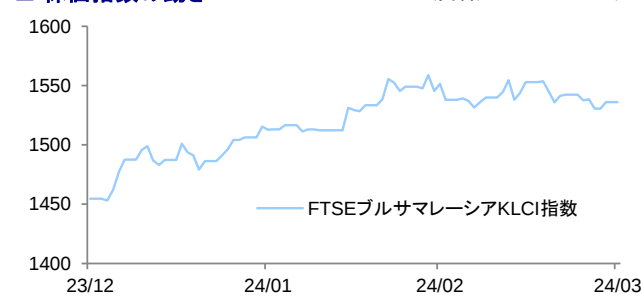
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/7	BNM Overnight Policy Rate	Mar 7	3.0%	3.0%	3.0%
3/7	Foreign Reserves	Feb29	-	\$114.3b	\$115.4b
3/12	Manufacturing Sales Value YoY	Jan	-	3.2%	-4.2%
3/18	Industrial Production YoY	Jan	2.0%	4.3%	-0.1%
3/18	Exports YoY	Feb	2.4%	-0.8%	8.7%
3/18	Imports YoY	Feb	7.5%	8.4%	18.8%
3/18	Trade Balance MYR	Feb	12.25b	10.87b	10.12b
3/22	Foreign Reserves	Mar15	-	\$113.4b	\$114.3b
3/25	CPI YoY	Feb	1.5%	1.8%	1.5%

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 15500 ~ 15950
 IDR/JPY 0.9434 ~ 0.9756
 JPY/IDR 102.50 ~ 106.00

(注) 100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 網島 正侑記

■ 先月の為替相場

3月のルピアは対ドルで下落。

月初1日、15700台前半で取引を開始。発表されたインドネシア2月消費者物価指数(CPI)の結果は市場予想を上回る結果となったが、引続き中銀の定める目標レンジ内となったこともあり、市場の反応は限定的となった。翌週5日にかけて15700台後半までルピア安が進展したものの、米経済指標が市場予想を下回ったことを受けドルが反落する流れとなり、8日にかけて15500台半ばまでルピアは反発した。連休明けとなる13日以降は同水準でのみ合いが継続したが、14日海外時間に発表された米2月生産者物価指数(PPI)が市場予想を上回る結果となるとドル買いが優勢となり、再度ルピアは下落。翌週20日海外時間にFOMC会合を控える中、ドル買いの流れが継続し15700台前半までルピア安が進展した。20日、インドネシア中銀会合では事前の予想通り政策金利の据え置きが発表された他、会合後のペリー総裁会見では「年下半期に政策変更の余地がある」との発言がなされたが市場の反応は限定的。海外時間に入り発表された注目のFOMCの結果では、事前の予想通り政策金利の据え置きが決定された一方で、パウエルFRB議長会見がハト派を受け止められたことを受けドル売りが進展。翌21日アジア時間のIDRは15600台前半までドル安が進展してオープンし、15600台半ばでもみ合い。22日、アジア時間午前中に人民元が対ドルで急落したことを受け、ドル高・アジア通貨安が優勢となるとIDRは15700台後半までルピア安が進展。翌週にかけ15700台後半で推移したが、月末が近づく中、実需のルピア売り圧力が強まり27日には15800台半ばを付けルピアは年初来安値を更新し、同水準でクローズした。

■ 今月の見通し

4月のルピアは堅調な値動きを予想。

インドネシア中銀は3月会合において政策金利の据え置きを決定、会合後のペリー総裁会見では年後半の利下げを示唆した。インドネシアCPIはコモ価格上昇を背景に下げ止まっているが、コアCPIは引続き低下傾向を維持しており国内の消費意欲の低下が懸念される。コアCPIがインフレ誘導目標下限の+1.5%に近づく中、中銀の本音としては利下げを行いたいものと推察されるものの、米国より先に利下げへ踏み切る場合、通貨安を招く恐れがあり慎重な判断が求められよう。

米国が利下げに踏み切った後に利下げへ動くものと考えられ、インドネシアの金融政策変更は米国の金融政策に依存する状態が継続しよう。

一方の米国では3月FOMCにおいて政策金利の据え置きを決定した他、ドットチャートは年内3回の利下げを見込む内容となった。会合後、パウエル議長は年内の利下げ着手を示唆した他、バランスシート縮小にも言及。市場ではハト派を受け止められた。

IDRはFOMC会合の結果を受けドル安・ルピア高で反応したものの、人民元安を受けルピアは反落し年初来安値を付けた。人民元については国有銀行が人民元買いを行った等の報道もあり落ち着きを取り戻しつつある中で、再度ドルが売られる流れに注意したい。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で人気のお土産』

インドネシア土産として有名なのは、コピ・ルアック。コピ・ルアックと聞いてピンと来ない方もいらっしゃるかもしれませんが、「ジャコウネコ コーヒー」と聞けばご存じの方も多いでしょうか。

ジャコウネコの糞から取れるコーヒー豆。世界一希少なコーヒーとも言われ、薫り高く、世界的にも有名、かつお値段もお高め。

空港の免税店でも様々な種類が並び、物色する観光客らしき方もよく見かけます。

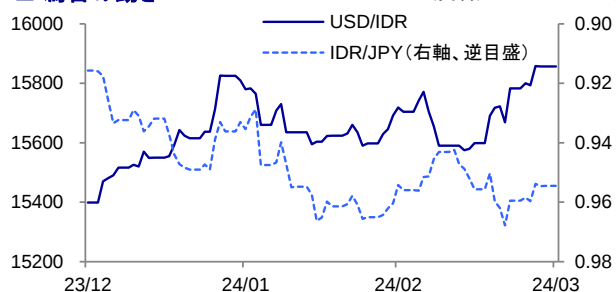
私も一度、買って飲んでみましたが味音痴の私にとっては「なんか美味しい気がする」程度。何も言わずに出されたらおそらく気が付いていなかったかと。

世界一希少なコーヒーと言われるだけあって、お値段も100gで3-4千円くらいした記憶。奥さんの冷やかな目線もあり、リピートする予定はありませんが、頂いたらうれしいものかと思います。

私も「違いの分かる男」になったら、某コーヒーのCMのように「ダバダ〜ダ〜バ〜…」と音楽をかけながら、コピ・ルアックを楽しみたいと思いますが、それまではインスタントコーヒーにしておこうと思います。

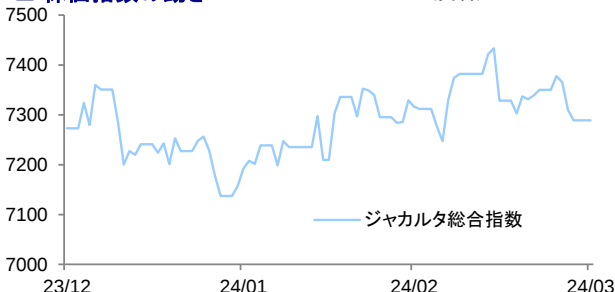
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント
3/1	CPI (前年同月比)
3/15	貿易収支 (USD M)
3/15	輸出 (前年比)
3/15	輸入 (前年比)
3/20	BI金利

(資料) ブルームバーク

期間	予想	結果	前回
2月	2.60%	2.75%	2.57%
2月	2,287	867	2,000
2月	-6.42%	-9.45%	-8.20%
2月	10.14%	15.84%	0.28%
-	6.00%	6.00%	6.00%

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 55.00 ~ 57.00
JPY/PHP 0.360 ~ 0.385

アジア・オセアニア資金部 マニラ室 榎 雄一郎

■ 先月の為替相場

米1月個人消費支出デフレーターが予想通りの結果となった安心感や、米労働市場の軟化から、米金利が低下しドル売りの流れとなったほか、比2月製造業PMIが51となったことが支援材料となり、ペソは月初から反転上昇。5日には2月の比消費者物価指数(CPI)が前年比+3.4%と市場予想の+3.0%を上回り、ペソは下落する局面が見られたものの、翌6日に比中銀のレモナ総裁はインフレがターゲットレンジ内に安定的に収まっていると断言するには早過ぎるとし、すぐに金融緩和に転換するとは言えないとの見解を示したことにより支援されペソは堅調推移となった。その後もパウエルFRB議長の議会証言での発言内容がハト派なものとなり、6月の利下げ観測が高まったほか、比1月貿易統計では貿易赤字が市場予想を下回ったことから、11日にペソは年初来高値を更新し、8日連続上昇となった。しかしながら、米インフレ指標の上振れが相次ぎ、早期利下げ観測が剥落し、ドル反発となったことからペソは下落に転じたが、月前半は堅調推移となり、2月末の1米ドル=56.200ペソから1米ドル=55ペソ台半ばまで水準を切り上げた。

月後半に入り、比1月海外在留労働者からの送金は前年比+2.7%と市場予想の+2.8%を下回る結果となったほか、FOMCに対する警戒感から、米金利上昇継続となり、ドルを押し上げたことからペソは軟調地合いを継続。日銀は金融政策決定会合にてマイナス金利政策の解除を決めたが、当面緩和的な金融環境が継続するとし、一段の円金利上昇観測が後退し、円が対ドルで下落し、他アジア通貨も連れ安となり、20日にはペソは2月末以来のペソ安水準となる1米ドル=56ペソ台に乗せるなど6日続落。FOMC参加者による政策金利予測では2024年の利下げが3回に据え置かれるなど、FOMCの結果が総じてハト派な内容となりドル全面安となったことから、21日にペソは7日ぶりの反発をみせたが、その後も堅調な米経済指標を受けたドル買いから、軟調地合い継続となり、前月末比▲0.040ペソ安と往って来いの展開となった。

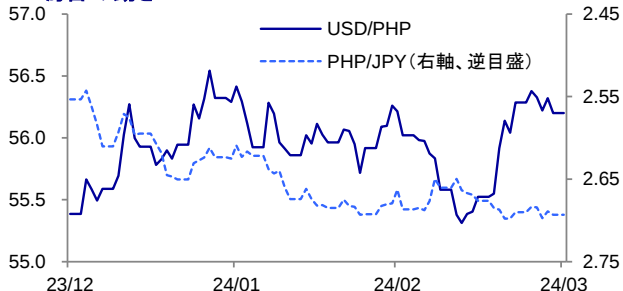
■ 今月の見通し

最近発表された米経済指標から米労働市場の堅調さやインフレ圧力の根強さが示唆されるも、FOMC参加者による政策金利予測の中央値では年内の利下げ回数の予測が3回に据え置かれるなど総じてハト派なFOMCとなりドル上昇は一服。すでに過度な早期米利下げ観測は後退しており、足許の市場の織り込みは年内3回程度と米金融当局者が想定する政策金利予測と概ね一致しており、現行水準からの米金利上昇余地は限定的となろう。一方で、米経済環境は底堅さを見せ、ソフトランディングの可能性が見込まれ、物価・賃金上昇圧力に対する懸念も燃えることから、米金融当局は政策緩和を急ぐ必要性は高くないため、当面の間は利上げも利下げもできず、現状維持を続ける可能性が高く、米金利は方向感に欠ける展開を想定する。

比中銀はエルニーニョ現象の影響による物価上昇リスクを警戒しているほか、レモナ総裁は利下げのタイミングについて米国の利下げを待つ必要はないとの見解を示すも、米国に先行して利下げに政策転換する可能性は低いとの見方であり、今後も引締めの姿勢を維持する公算が高く、政策金利差の観点では米比共に当面の据え置きが見込まれる中、PHP為替相場に方向感を見出しにくい。今後もドル主導の相場の中、米インフレ・労働指標の結果を受けた米利下げ観測に対する悲観と楽観に揺れながらボラティルな展開が続くとの見方は変わらずであるが、1米ドル=56ペソを挟んでのレンジ相場となる公算が高い。昨年の比金融当局の防衛ラインとなった1米ドル=57ペソ付近からその後に米利下げ織り込みが急速に進んだ局面につけた1米ドル=55ペソ付近が引き続き、当面のドルペソ相場のレンジの上下限となろう。

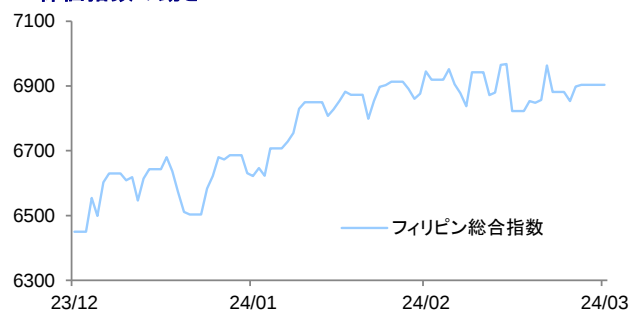
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日 イベント
上記参照

(資料) ブルームバーク

期間	予想	結果	前回

インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 82.90 ~ 83.60
INR/JPY 1.77 ~ 1.86

アジア・オセアニア資金部 インド室 綿引 修平

■ 先月の為替相場

【3月の米ドル/インドルピーは節目83水準を再び上方にブレイク】

82台後半水準にて当月取引を開始。月初については、下値におけるインド準備銀行(RBI)からの下支えの為替介入(USD買い・INR売り)がしっかり見え、総じて底堅い動きに。月央にかけて、フロー主導でじりじりとルピー安方向に転じる展開となるも、節目83水準目前で上値重い展開が続く。月末にかけては、USD買い圧力の加速や大口のフローも相俟って、節目83水準を上方にブレイク。その後は上値を伸ばすルピー安の流れへと転じ、結局、83.30台後半水準にてクローズ(27日時点)。

SENSEXは、2月に発表された良好なインド10~12月期GDPの結果を好感し、上昇基調から年初来高値を更新。その後は、利益確定売りの様相が強くなり、調整局面にて72,000水準を展開も、総じて底堅い値動きは変わらず。月末にかけては反発の様相を見せ、再び年初来高値水準を視野に捉えてきた恰好。外国人投資家からのインド株への投資資金流入は、買い越しの勢いが加速しており、再び堅調な状況に。

インド経済指標では、2月製造業/サービス業PMIは強弱ミックスの結果に。2月消費者物価指数(CPI、前年比)は+5.09%と、前回の+5.10%から小幅に低下し、引き続きインフレターゲット上限である+6%の範囲内に収まって安定した状況。2月貿易収支は赤字幅が拡大し赤字常態化は継続、通貨として売られやすい立ち位置は根強く不変のまま。

■ 今月の見通し

【4月の米ドル/インドルピーは節目83水準を超えて高値圏推移か】

4月においては、節目83水準を超えた水準にて高値圏での揉み合いを見込む。3月は、節目83水準を下回る値動きが続いていたものの、下値でのRBIからの下支えの為替介入により、過度なルピー高は抑制されつつ、USD買い圧力の流れに、再びルピー安の展開に転じた。大口フロー動向に注視していく必要はあるものの、RBIからのアンダーコントロール姿勢が継続している状況下、目線感としての安定推移路線は崩さず、根強いUSD高に連れられる恰好で83~84ルピーのレンジ感にて高値圏での揉み合いを想定しておきたい。

2月CPIは、前回対比小幅に低下する結果に。2月MPCでは、政策金利は据え置きとなったものの、全会一致での据え置きから、反対票(利下げ票)が初めて入る恰好となり、「ディスインフレへのラストマイル」とのダス・RBI総裁のコメントも視野に入れつつ、インフレターゲット+4%への道程の確認と併せて、インドとしての利下げ局面入りが年後半にかけて視野に入ってくる可能性も控えておきたい。

3月に入り、インド株・インド債券への投資資金流入の勢いは、再び加速の一途を辿っており、上値押さえのファクターとして引き続き注目材料。米経済の失速・利下げ局面入りにて年後半にかけてルピー高の流れが顕在化する方向感を見込むものの、思った程のUSD売りには至らず、むしろRBIからの下支えの為替介入や根強い実需勢からのアウトフロー(インドルピー売り)を伴って、ルピー安に回帰していく方向感を足許は崩していない。インドにおける利下げ局面入りと米利下げ局面の時期が重なり合う可能性もあり、年央から年後半にかけては、局所的にボラティルな値動きも。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

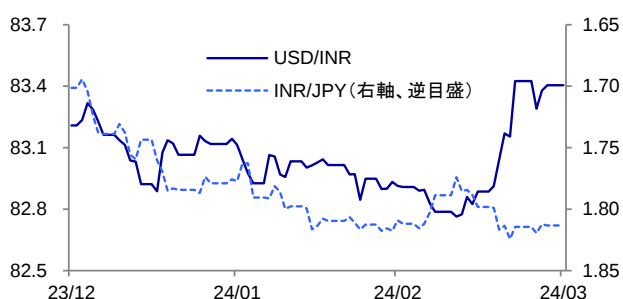
『当地で人気のお土産』

インドで人気のお土産というと、紅茶、アーユルヴェーダコスメ、ブロックプリントの布地、カシミア等が挙げられる。個人的にはオートリキシャのミニカーみたいなおもちゃがなんとなく気に入っている。リキシャの色は州や地域によって違っており、デリーでは黄色と緑の標準的な色、ムンバイでは黒に黄色、南の方は黄色一色、青いオートなども走っていることがある。それぞれの色のミニカーを揃えるもの楽しいのではと思ってしまう。

一時帰国のお土産に迷った時耳にしたのは、某企業はPartySmartを社内へのお土産に箱買いしている、そして社内の人も心待ちにしているという話だった。PartySmartとはHimalayaから出されている二日酔いを予防、改善する天然成分で配合されたサプリメントである。Himalayaとは1930年に設立されたアーユルヴェーダを基調とした、天然成分サプリメントやコスメ商品を販売している製薬会社であり、薬局やスーパーで見ないことはないポピュラーなブランドである。しかしこのPartySmartに限って言えば、ない。大手ヘルスケア企業Apolloのオンラインサイトでも数は少なかった。多く製造されていないからと聞いたが、飲酒を良しとしない宗教の国だからなのかもしれない。このPartySmartが宴席の多い会社の方々へのお土産として人気であるらしい。日本でもオンラインで販売されており、薬局で見ないのはこのせい？私も持っているが、二日酔いを、完璧には言わないが翌日かなり楽に朝を迎えることができるように思う。お守り代わりにおひとつどうぞだろうか。まあ、飲みすぎなければ出番のないお土産ではありますが(バンガロール支店 近藤)

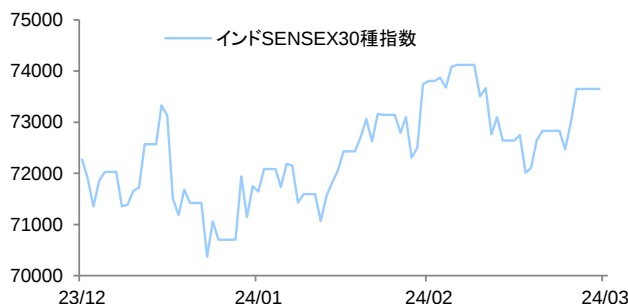
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

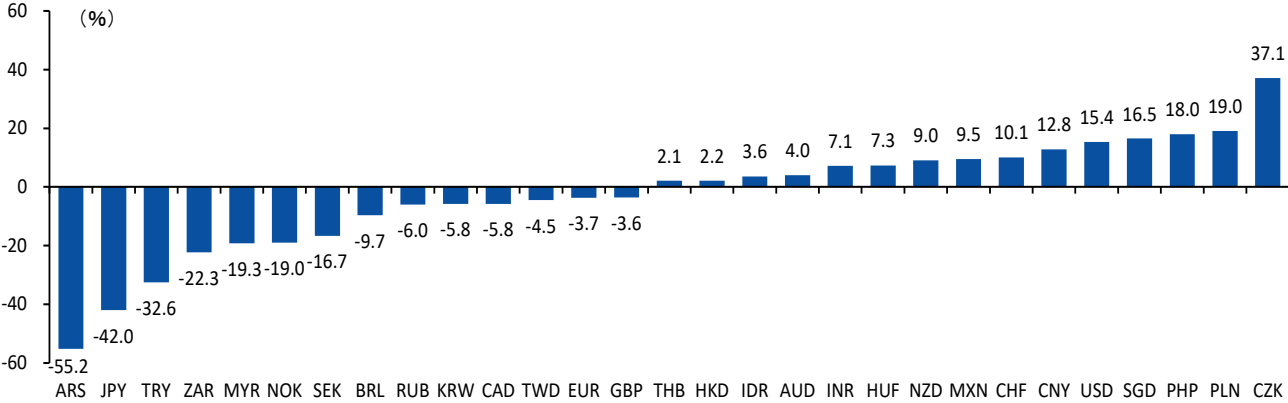
発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	製造業PMI	2月	-	56.9	56.5
3/5	サービス業PMI	2月	-	60.6	61.2
3/12	鉱工業生産	1月	4.10%	3.80%	4.20%
3/12	CPI	2月	5.04%	5.09%	5.10%
3/15	貿易収支(百万ドル)	2月	-18,650	-18,710	-17,491

■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2023年末	2024年3月末	騰落率	株式市場	2023年末	2024年3月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	37689.54	39807.37	5.6%	-
日本	USD/JPY	141.04	151.35	7.3%	日経平均株価	33464.17	40369.44	20.6%	12.4%
ユーロ圏	EUR/USD	1.1039	1.079	-2.3%	ドイツDAX指数	16751.64	18492.49	10.4%	10.4%
英国	GBP/USD	1.2731	1.2623	-0.8%	ロンドンFTSE 100指数	7733.24	7952.62	2.8%	3.7%
豪州	AUD/USD	0.6812	0.6521	-4.3%	S&P/ASX200指数	7590.818	7896.858	4.0%	8.7%
カナダ	USD/CAD	1.3243	1.354	2.2%	S&PTロント総合指数	20958.44	22167.03	5.8%	3.4%
エマーGINGアジア									
中国	USD/CNY	7.1	7.2224	1.7%	上海総合	2974.935	3041.167	2.2%	0.5%
香港	USD/HKD	7.8115	7.8247	0.2%	香港ハンセン	17047.39	16541.42	-3.0%	-3.1%
インド	USD/INR	83.2088	83.405	0.2%	インドSENSEX30種	72240.26	73651.35	2.0%	1.7%
インドネシア	USD/IDR	15399	15857	3.0%	ジャカルタ総合	7272.797	7288.813	0.2%	-2.7%
韓国	USD/KRW	1291.07	1347.26	4.4%	韓国総合株価	2655.28	2746.63	3.4%	-0.9%
マレーシア	USD/MYR	4.594	4.725	2.9%	ブルサマレーシアKLCI	1454.66	1536.07	5.6%	2.7%
フィリピン	USD/PHP	55.385	56.201	1.5%	フィリピン総合	6450.04	6903.53	7.0%	5.5%
シンガポール	USD/SGD	1.3203	1.3493	2.2%	シンガポールST	3240.27	3224.01	-0.5%	-2.6%
台湾	USD/TWD	30.579	31.983	4.6%	台湾加権	17930.81	20294.45	13.2%	8.2%
タイ	USD/THB	34.256	36.348	6.1%	タイSET	1415.85	1377.94	-2.7%	-8.3%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2024年2月時点)



■ 実質GDP成長率

	2022Q2	2022Q3	2022Q4	2023Q1	2023Q2	2023Q3	2023Q4	2022	2023
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	-0.6	2.7	2.6	2.2	2.1	4.9	3.4	1.9	2.5
日本*	4.8	-0.7	1.8	4.0	4.2	-3.2	0.4	1.0	1.9
ユーロ圏	4.1	2.5	1.9	1.3	0.6	0.1	0.1	3.4	0.4
英国	3.9	2.1	0.6	0.3	0.2	0.2	-0.2	4.3	0.1
豪州	3.5	5.8	2.4	2.5	2.1	2.1	1.5	3.8	2.1
カナダ*	3.8	1.8	-0.9	2.6	0.6	-0.5	1.0	3.8	1.1
エマージングアジア									
中国	0.4	3.9	2.9	4.5	6.3	4.9	5.2	3.0	5.2
香港	-1.2	-4.6	-4.3	2.9	1.5	4.1	4.3	-3.7	3.2
インド	12.8	5.5	4.3	6.2	8.2	8.1	8.4	9.1	7.0
インドネシア	5.5	5.7	5.0	5.0	5.2	4.9	5.0	5.3	5.1
韓国	2.9	3.2	1.4	0.9	0.9	1.4	2.2	2.6	1.4
マレーシア	8.8	14.1	7.1	5.6	2.9	3.3	3.0	8.7	3.7
フィリピン	7.5	7.7	7.1	6.4	4.3	6.0	5.6	7.6	5.6
シンガポール	4.6	4.2	2.4	0.5	0.5	1.0	2.2	3.9	1.1
台湾	3.5	4.0	-0.7	-3.5	1.4	2.2	4.9	2.6	1.3
タイ	2.4	4.4	1.3	2.6	1.8	1.4	1.7	2.5	1.9

(注)インドの年間成長率は会計年度(4～3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	23/07	23/08	23/09	23/10	23/11	23/12	24/01	24/02	2022	2023
	(%)								(%)	
先進国										
米国	3.5	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.9	3.6	3.6
日本	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.6	2.6	2.6
ユーロ圏	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.4		6.7	6.5
英国	4.3	4.2	4.1	4.0	3.9	3.8	3.9		3.9	4.0
豪州	3.8	3.7	3.6	3.8	3.9	3.9	4.1	3.7	3.7	3.7
カナダ	5.5	5.5	5.6	5.7	5.8	5.8	5.7	5.8	5.3	5.4
エマージングアジア										
中国										
香港	2.8	2.8	2.8	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	4.3	3.0
インドネシア		5.3							5.9	5.4
韓国	2.8	2.5	2.6	2.5	2.8	3.2	3.0	2.6	2.9	2.7
マレーシア	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3		3.8	3.4
フィリピン	4.8	4.4	4.5	4.2	3.6	3.1	4.5		5.4	4.4
シンガポール	2.4	2.3	2.1	2.1	2.0	1.8	1.9	2.0	2.1	1.9
台湾	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.7	3.5
タイ			1.0							

■ 消費者物価上昇率

	23/06	23/07	23/08	23/09	23/10	23/11	23/12	24/01	24/02	2022	2023
	(前年比%)									(前年比%)	
先進国											
米国	3.0	3.2	3.7	3.7	3.2	3.1	3.4	3.1	3.2	8.0	4.1
日本	3.3	3.3	3.2	3.0	3.3	2.8	2.6	2.2	2.8	2.5	3.3
ユーロ圏	5.5	5.3	5.2	4.3	2.9	2.4	2.9	2.8	2.6	8.4	5.5
英国	7.9	6.8	6.7	6.7	4.6	3.9	4.0	4.0	3.4	9.1	7.3
豪州	6.0			5.4			4.1			6.6	5.6
カナダ	3.4	3.3	4.0	3.8	3.1	3.1	3.4	2.9	2.8	6.8	3.9
エマージングアジア											
中国	0.0	-0.3	0.1	0.0	-0.2	-0.5	-0.3	-0.8	0.7	2.0	0.2
香港	1.9	1.8	1.8	2.0	2.7	2.6	2.4	1.7	2.1	1.9	2.1
インド	4.9	7.4	6.8	5.0	4.9	5.6	5.7	5.1	5.1	6.7	5.7
インドネシア	3.5	3.1	3.3	2.3	2.6	2.9	2.6	2.6	2.8	4.2	3.7
韓国	2.7	2.4	3.4	3.7	3.8	3.3	3.2	2.8	3.1	5.1	3.6
マレーシア	2.4	2.0	2.0	1.9	1.8	1.5	1.5	1.5	1.8	3.4	2.5
フィリピン	5.4	4.7	5.3	6.1	4.9	4.1	3.9	2.8	3.4	5.8	6.0
シンガポール	4.5	4.1	4.0	4.1	4.7	3.6	3.7	2.9	3.4	6.1	4.8
台湾	1.8	1.9	2.5	2.9	3.0	2.9	2.7	1.8	3.1	3.0	2.5
タイ	0.2	0.4	0.9	0.3	-0.3	-0.4	-0.8	-1.1	-0.8	6.1	1.3

(注)豪州は四半期データ。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2022Q2	2022Q3	2022Q4	2023Q1	2023Q2	2023Q3	2023Q4	2022	2023
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-3.9	-3.8	-3.7	-3.4	-3.2	-3.0	-2.9	-3.8	-3.0
日本	3.0	2.3	1.9	1.5	2.0	2.9	3.5	1.9	
ユーロ圏	1.0	-0.2	-0.6	-0.4	0.3	1.2	1.9	-0.6	1.9
英国	-3.4	-3.2	-3.1	-2.1	-2.2	-2.4	-3.3		
豪州	1.8	0.9	1.1	1.3	1.2	1.2	1.2	1.1	
カナダ	0.3	-0.1	-0.4	-0.7	-1.0	-0.9	-0.6	-0.4	-0.6
エマージングアジア									
中国	2.1	2.5	2.4	2.2	2.2	1.8	1.5	2.2	
香港	10.6	11.4	10.2	9.1	9.4	8.9	9.3	10.2	
インド	-1.9	-2.6	-2.4	-2.0	-1.7	-1.1	-0.9	-2.4	-0.9
インドネシア	0.9	0.9	1.1	1.2	0.7	0.2	-0.1	1.0	0.2
韓国	4.1	2.8	1.6	0.4	0.2	1.1	2.1	1.5	
マレーシア	2.7	2.5	3.1	3.0	3.3	2.8	1.3	3.1	
フィリピン	-4.6	-5.9	-4.6	-4.4	-3.3	-2.4	-2.6	-4.4	
シンガポール	18.9	18.8	18.0	18.2	18.2	18.5	19.8	18.0	19.8
台湾	14.9	14.3	13.4	12.1	11.9	12.7	13.9	13.4	13.9
タイ	-3.1	-3.7	-3.2	-2.1	-0.9	1.2			

(注)インドの年間経常収支は会計年度(4～3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	変更幅	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	5.25-5.50	引き締め: 2022/3/16	0.00-0.25	2023/7/26	+25bp	2024/3/20	現状維持
日本	当座預金残高の政策金利	0.00	引き締め: 2024/3/19	-0.10	2024/3/19	+10bp	2024/3/19	+10bp
ユーロ圏	預金ファシリティレート	4.00	引き締め: 2022/7/21	-0.50	2023/9/14	+25bp	2024/3/7	現状維持
英国	バンク・レート	5.25	引き締め: 2021/12/16	0.10	2023/8/3	+25bp	2024/3/21	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	4.35	引き締め: 2022/5/3	0.10	2023/11/7	+25bp	2024/3/19	現状維持
カナダ	翌日物金利	5.00	引き締め: 2022/3/2	0.25	2023/7/12	+25bp	2024/3/6	現状維持
エマージングアジア								
中国	1年物最優遇貸出金利(LPR)	3.45	緩和: 2012/6/8	6.31	2023/8/21	-10bp	2024/3/20	現状維持
インド	翌日物レポ金利	6.50	引き締め: 2022/5/4	4.00	2023/2/8	+25bp	2024/2/8	現状維持
インドネシア	BI金利	6.00	引き締め: 2022/8/23	3.50	2023/10/19	+25bp	2024/3/20	現状維持
韓国	7日物レポ金利	3.50	引き締め: 2021/8/26	0.50	2023/1/13	+25bp	2024/2/22	現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.00	引き締め: 2022/5/11	1.75	2023/5/3	+25bp	2024/3/7	現状維持
フィリピン	翌日物金利	6.50	引き締め: 2022/5/19	2.00	2023/10/26	+25bp	2024/2/15	現状維持
台湾	再割引金利(公定歩合)	2.000	引き締め: 2022/3/17	1.125	2024/3/21	+12.5bp	2024/3/21	+12.5bp
タイ	翌日物レポ金利	2.50	引き締め: 2022/8/10	0.50	2023/9/27	+25bp	2024/2/7	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	5.00	緩和: 2023/3/31	6.00	2023/5/23	-50bp	2023/5/23	-50bp

(注) インドネシア中銀は2023年12月21日に政策金利を7日物リバースレポレートからBI金利に変更